

第2回 加賀市都市計画マスタープラン及び 加賀市立地適正化計画 策定委員会

協議資料

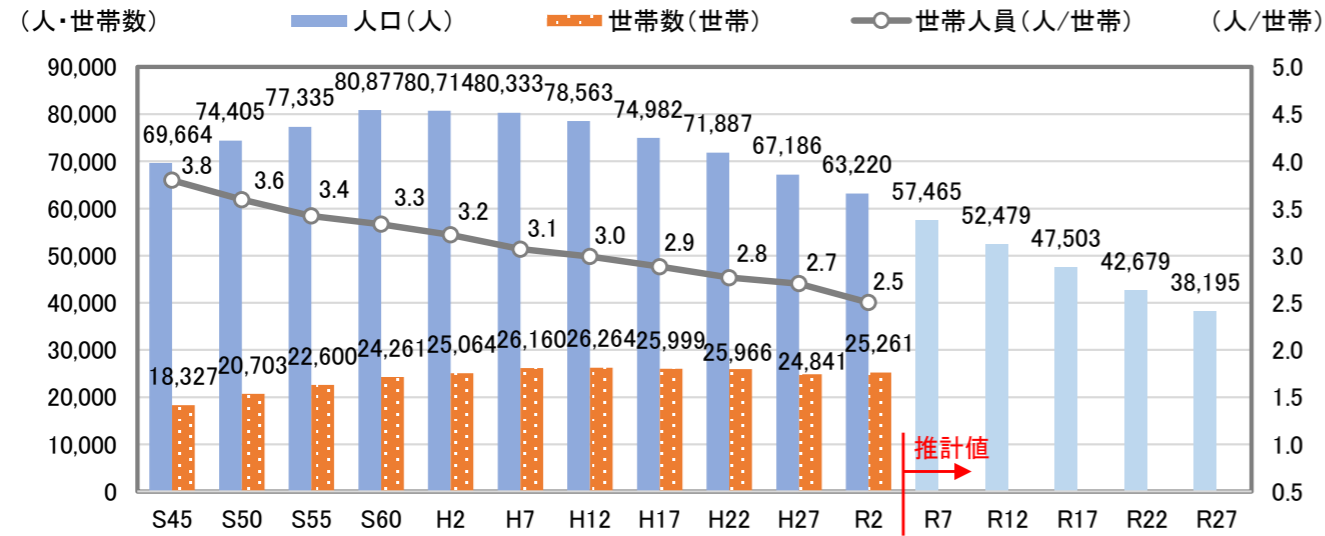
—目次—

1. 加賀市の現況	2
2. 災害に関する動向	5
3. 市民アンケート結果	7
4. スマートシティ化に関して	13
5. 上位計画・主な関連計画	15
6. 加賀市における課題	16
7. 都市計画マスタープラン・立地適正化計画の基本方針（素案）	17

1. 加賀市の現況

①人口の推移

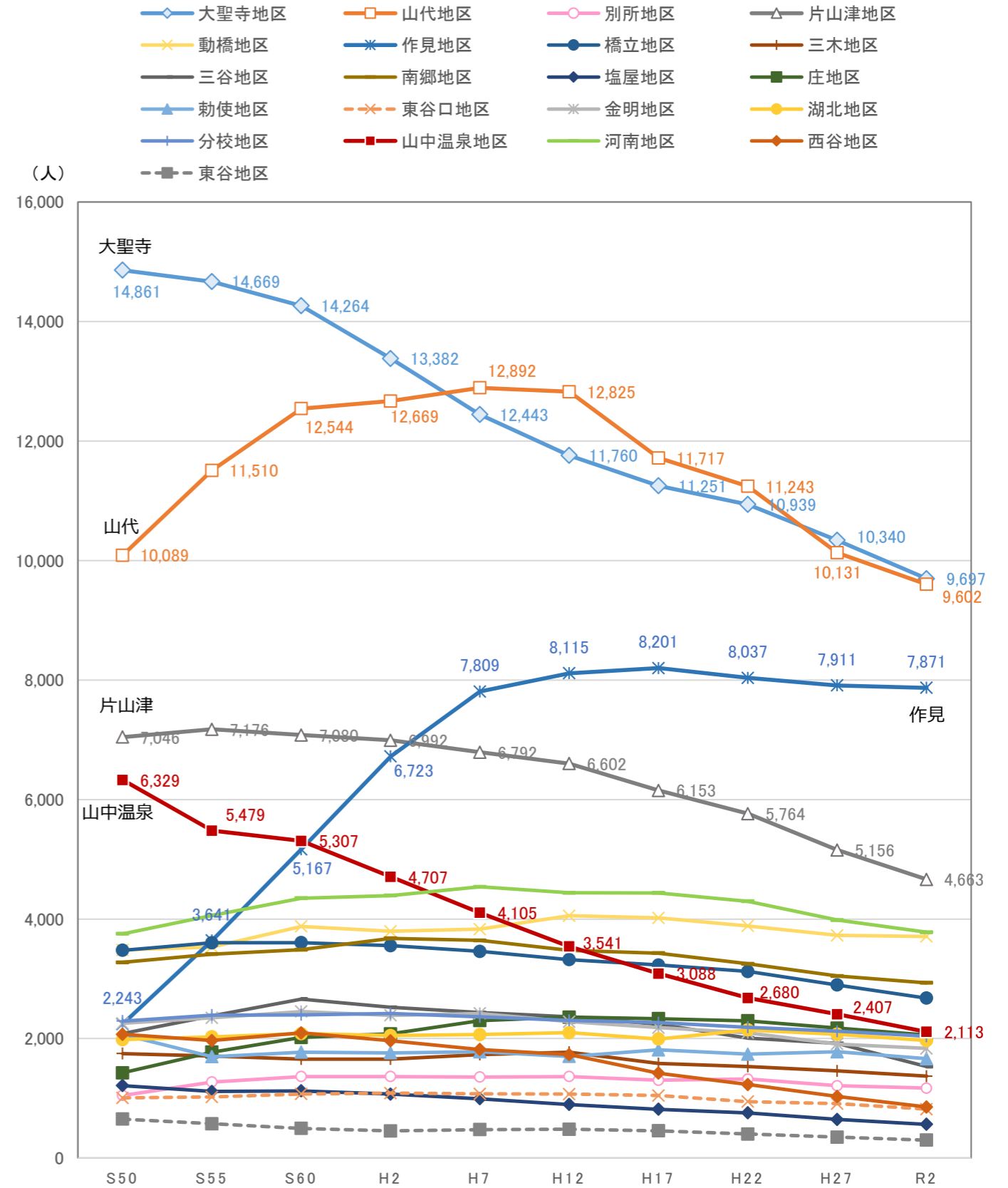
- 令和2年の国勢調査では、本市の人口は約 63,000 人であり、昭和 60 年のピーク時から 35 年間で約 17,000 人の減少（21%の減少）がみられ、将来推計においても減少傾向です。
- 世帯数は平成 12 年をピークに、その後、緩やかに減少しています。また、世帯人員は減少を続けており、単独世帯等が増加している状況です。



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（H30）

②地区別人口の推移

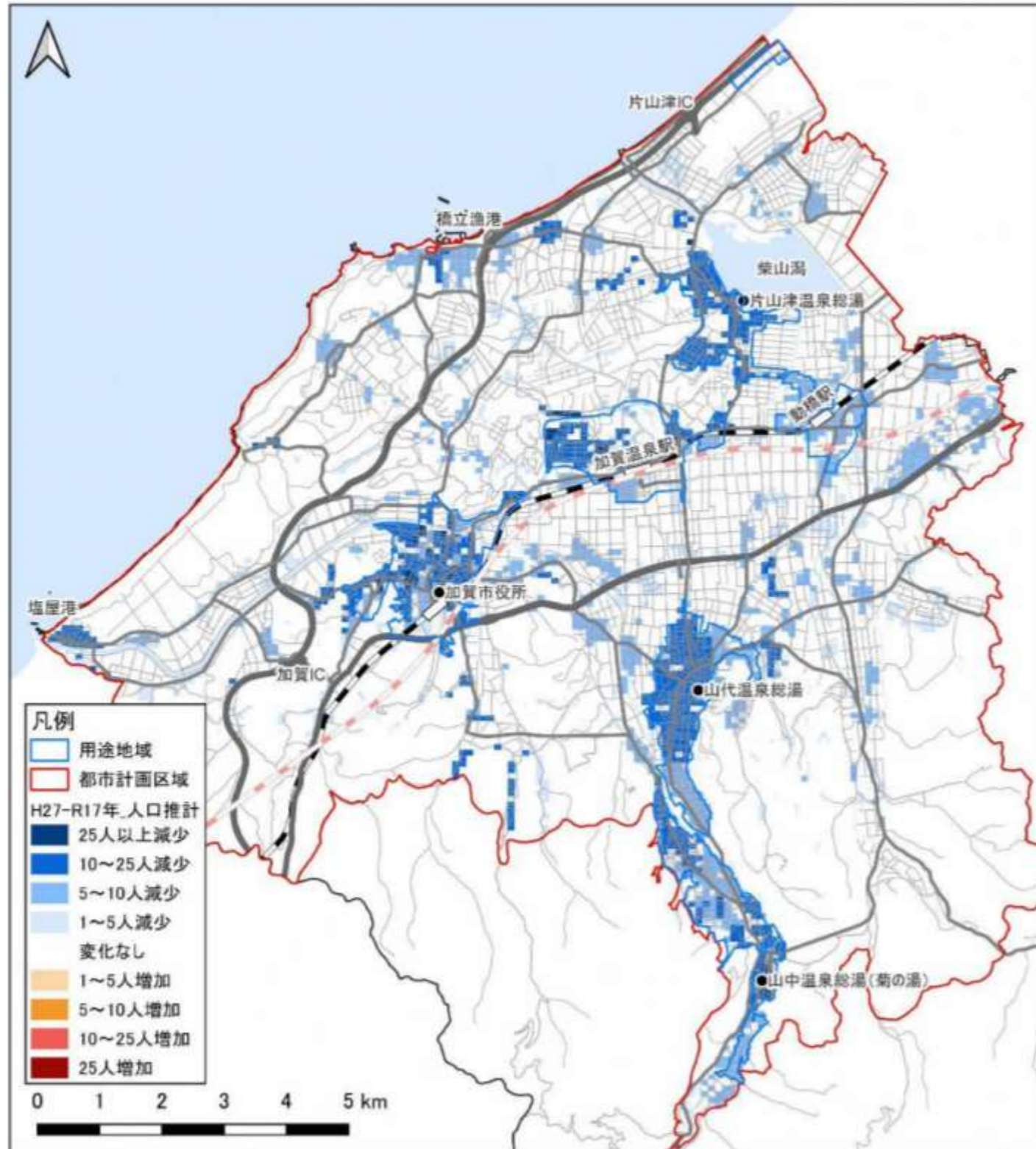
- 地区別でみた場合、昭和 50 年に市内で最も人口の多かった大聖寺地区は減少が続いており、山中温泉地区においても昭和 50 年から減少が続いています。片山津地区は昭和 60 年から減少しており、平成 7 年まで増加していた山代地区も平成 12 年から減少し、その後大きく減少しています。
- 作見地区は平成 17 年まで増加が続いていましたが、その後横ばい傾向です。また、その他の地区については、大幅な減少はしていません。



出典：国勢調査

③人口分布の将来的な変化

- 人口の増減を現状〔平成 27 年〕と将来推計〔令和 17 年（2035 年）〕で比較すると、ほぼすべての地区において人口の減少が予測されています。

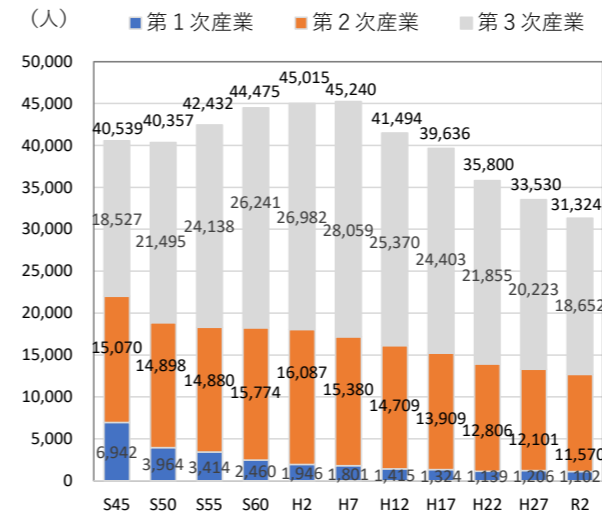


出典：国立社会保障・人口問題研究所（H30）

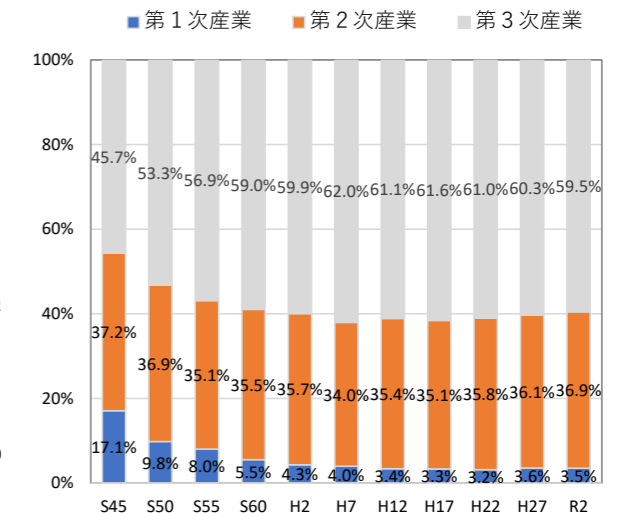
④産業の動向

- 本市の就業者人口は、平成 7 年をピークに減少しており、産業別にみても、どの産業も近年減少傾向にあります。
- 産業人口の内訳は、昭和 45 年から昭和 50 年までの 5 年間で第 1 次産業の割合が大きく減少する一方で、第 3 次産業は増加しましたが、近年では大きな割合の変化はみられず、昭和 45 年から令和 2 年の 50 年間で第 1 次産業が 13.6%減少し、第 3 次産業が 13.8%増加しています。

【産業別就業者人口の推移】



【産業別就業者人口割合の推移】

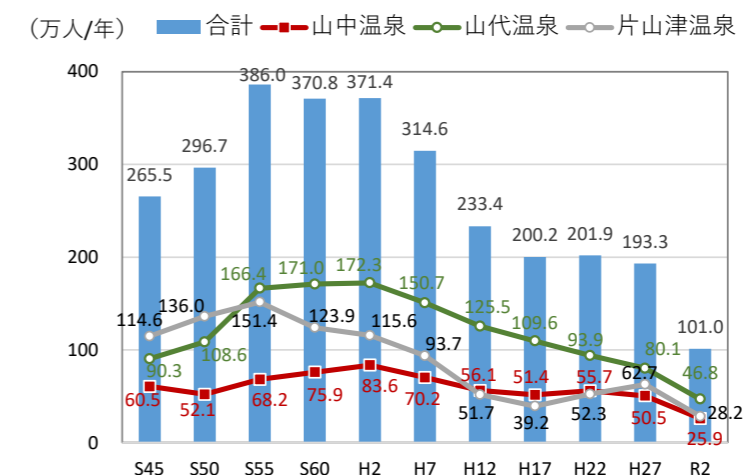


出典：国勢調査

⑤観光の動向

- 市内3温泉地の観光入り込み客数（宿泊・日帰り）は、昭和 50 年代後半から平成 5 年までにピークをむかえ、最高時には約 390 万人に達しましたが、バブル経済の崩壊とともに平成 12 年にかけて大きく減少しました。平成 17 年以降は横ばい傾向にありましたが、新型コロナウイルスの影響により、令和 2 年は過去最低の 101 万人と、ピーク時（昭和 55 年）より 74%減少しています。

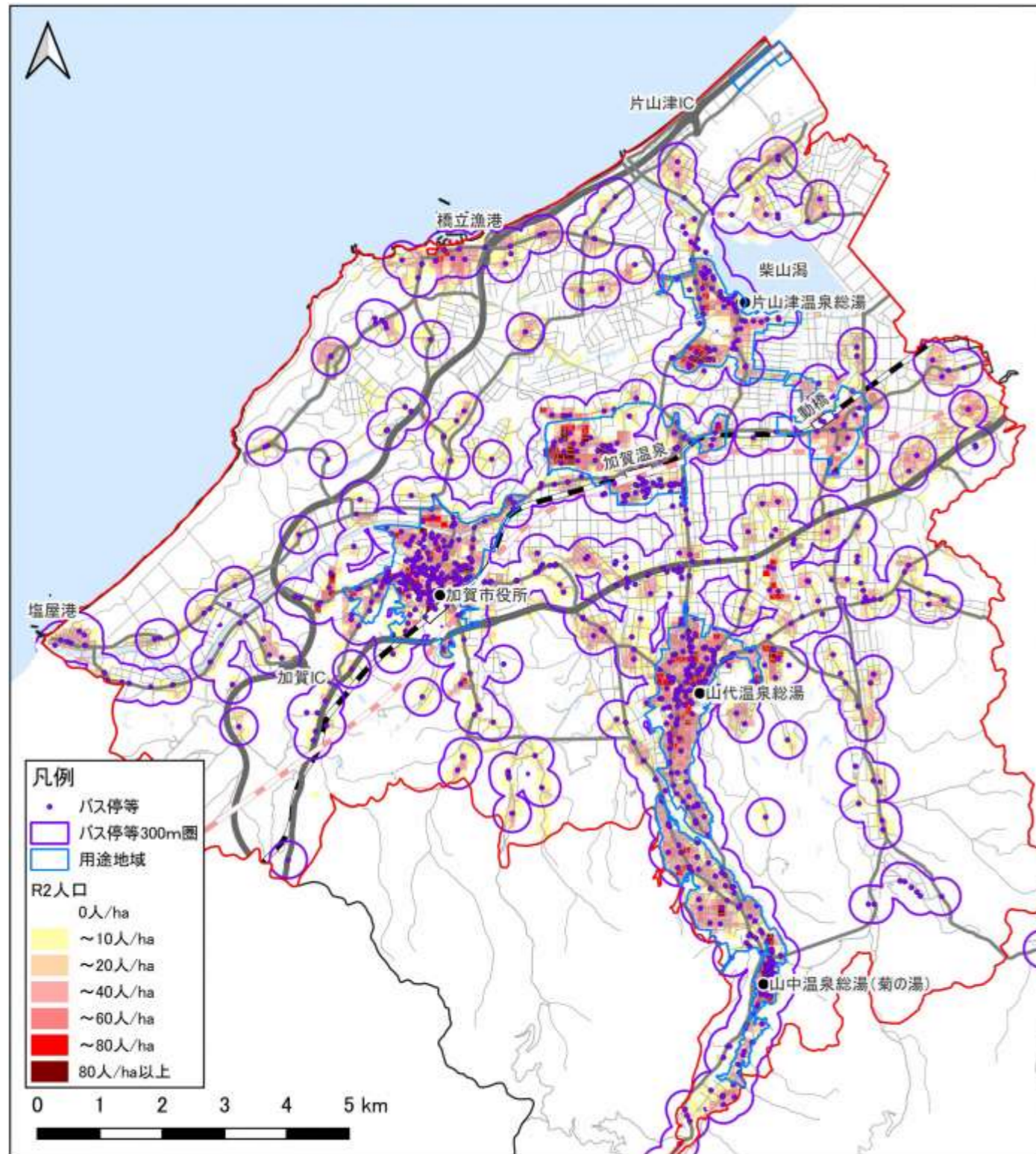
【観光入り込み客数の推移】



出典：加賀市観光統計

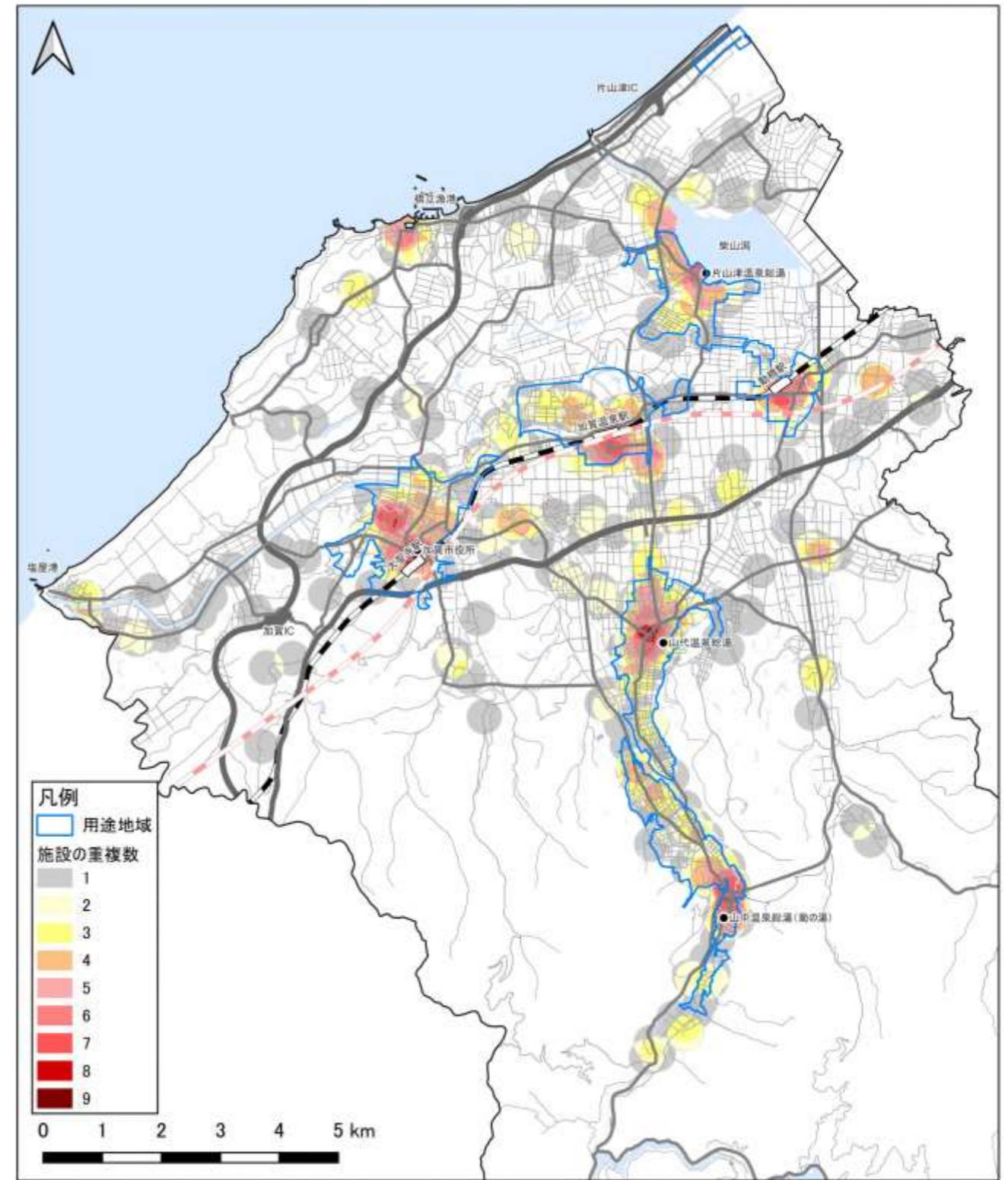
⑥バス停等の分布状況

- 市内を運行する路線バスやキャンパス（周遊バス、生活路線）のバス停、のりあい号の停留所から半径 300 m圏の人口は、60,911 人（総人口の 96%）となっています。



⑦生活利便施設の集積状況

- 市内の生活利便施設は、居住誘導区域が指定されている大聖寺地域・山代地域・片山津地域・作見地域・山中地域のほか、動橋地域・橋立地域にも集積がみられます。



【まとめ】

- 昭和 60 年をピークに人口減少が続いており、今後も減少予想ですが、用途地域外での人口増加により、市街地の拡大が懸念されます。
- 市内のバス停の分布状況は、のりあい号の充実により総人口の 96% をカバーしているものの、路線バスを中心とした公共交通の持続的な運行に向け、居住地の集約による効率的な運行が必要です。

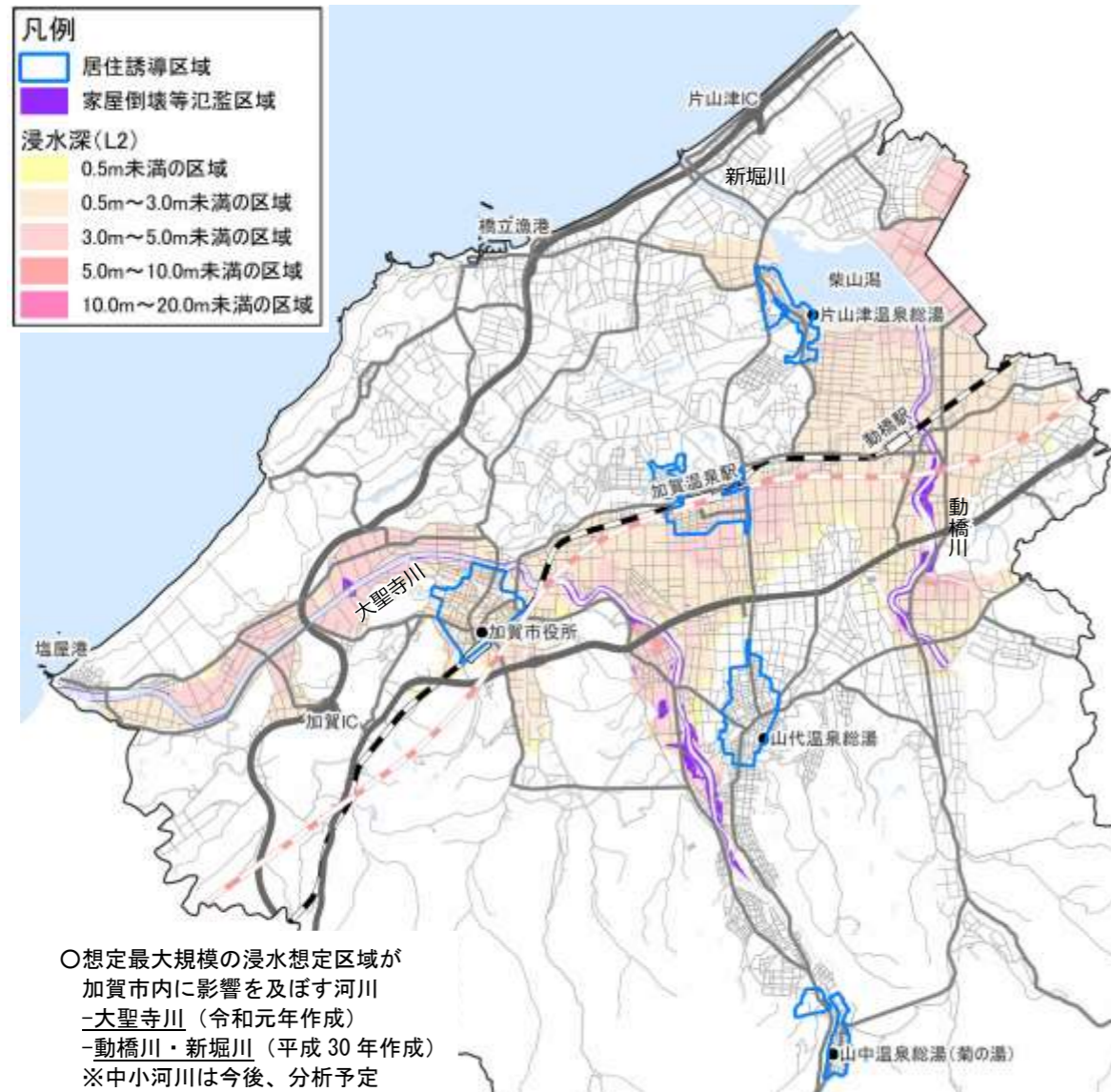
→人口減少や高齢化が進むなか、都市機能の維持や活力を高めるため、新たな取組が不可欠

2. 災害に関する動向

(1) 激甚化する自然災害と防災指針の策定

- 近年、全国各地で豪雨等による水災害が頻発化し、人命や家屋、社会経済に広域的かつ甚大な被害が生じています。特に、各河川の洪水ハザードマップについては、想定最大規模（L2、1000年以上に1回）の降雨を想定したものが公開されており、住民に情報提供や注意喚起が行われています。
- このようななか、令和2年に都市再生特別措置法が改正され、立地適正化計画に居住誘導区域等の防災・減災に向けた「防災指針」の記載が義務付けられ、加賀市立地適正化計画においても策定します。

【加賀市内の浸水想定区域（想定最大規模）】



(参考) 家屋倒壊等氾濫想定区域とは

- 家屋倒壊等氾濫想定区域は、想定最大規模の浸水想定区域と併せて公表されたもので、「氾濫流」「河岸侵食」という2種類の被害の範囲からなります。
 氾濫流…河川堤防の決壊または洪水氾濫流により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域
 河岸侵食…洪水時に河岸侵食により、木造・非木造の家屋倒壊のおそれがある区域
- 洪水時に家屋の流出・倒壊等のおそれがあるため、立ち退き避難が必要な場合があります。

(2) 防災指針の方向性

- 防災指針の内容は、下記の流れで検討します。

ステップ1 居住誘導区域における災害リスク分析と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

1) マクロ分析（市全域）

①市域全体のスケールで、居住誘導区域への被災状況の確認

- 国や県、市が公表した既存の「ハザード情報」を収集します。

分野	ハザード情報
水害	想定最大規模（浸水想定区域、家屋倒壊等氾濫想定区域、浸水継続時間）、計画規模（浸水想定区域）※、浸水実績
土砂災害	土砂災害特別警戒区域※、土砂災害警戒区域※ 地すべり防止区域※、急傾斜地崩壊危険区域※ 大規模盛土造成地
その他	津波浸水想定区域、高潮浸水想定区域、（ため池）

※現在の居住誘導区域から除外済み（L1浸水想定区域は浸水深1m以上を除外）

②ハザード情報を重ね合わせる都市情報の収集

- 災害時の被害規模の算出基準や避難時の課題となる、「都市情報」を収集します。

分野	都市情報
人口	100mメッシュ人口
住宅	建物現況（建物用途、階数データがある用途地域内の建物を対象）
施設	避難所分布、病院、要配慮利用施設
インフラ	道路網（緊急輸送道路、アンダーパス・冠水危険箇所）

③ハザード情報×都市情報により、居住誘導区域全体の課題を確認

- 「①ハザード情報」と「②都市情報」をGISソフト上で重ね合わせ、市域や居住誘導区域全体の災害リスクを整理します。

2) ミクロ分析（地域別）

○各地域単位で、リスク分析（ハザード×都市情報）により課題を抽出

- 作見地域や大聖寺地域などの単位で、居住誘導区域内の災害リスクを確認します。

ステップ2 防災まちづくりの将来像、取組方針の検討

- 地域ごとの課題を踏まえた、取組方針の検討

ステップ3 具体的な取組、スケジュール、目標値の検討

- 防災指針に基づく具体的なハード・ソフトの取組の検討
- 取組スケジュールと目標値の検討
- 防災指針に関連する制度の検討

災害リスクが高いエリアについて、居住誘導区域からの除外の必要性、防災・減災対策を検討

【参考】ミクロ分析のイメージ（水害時の住宅の浸水状況）

ハザード情報

想定最大規模の水害（浸水深、家屋倒壊等氾濫想定区域等）



都市情報

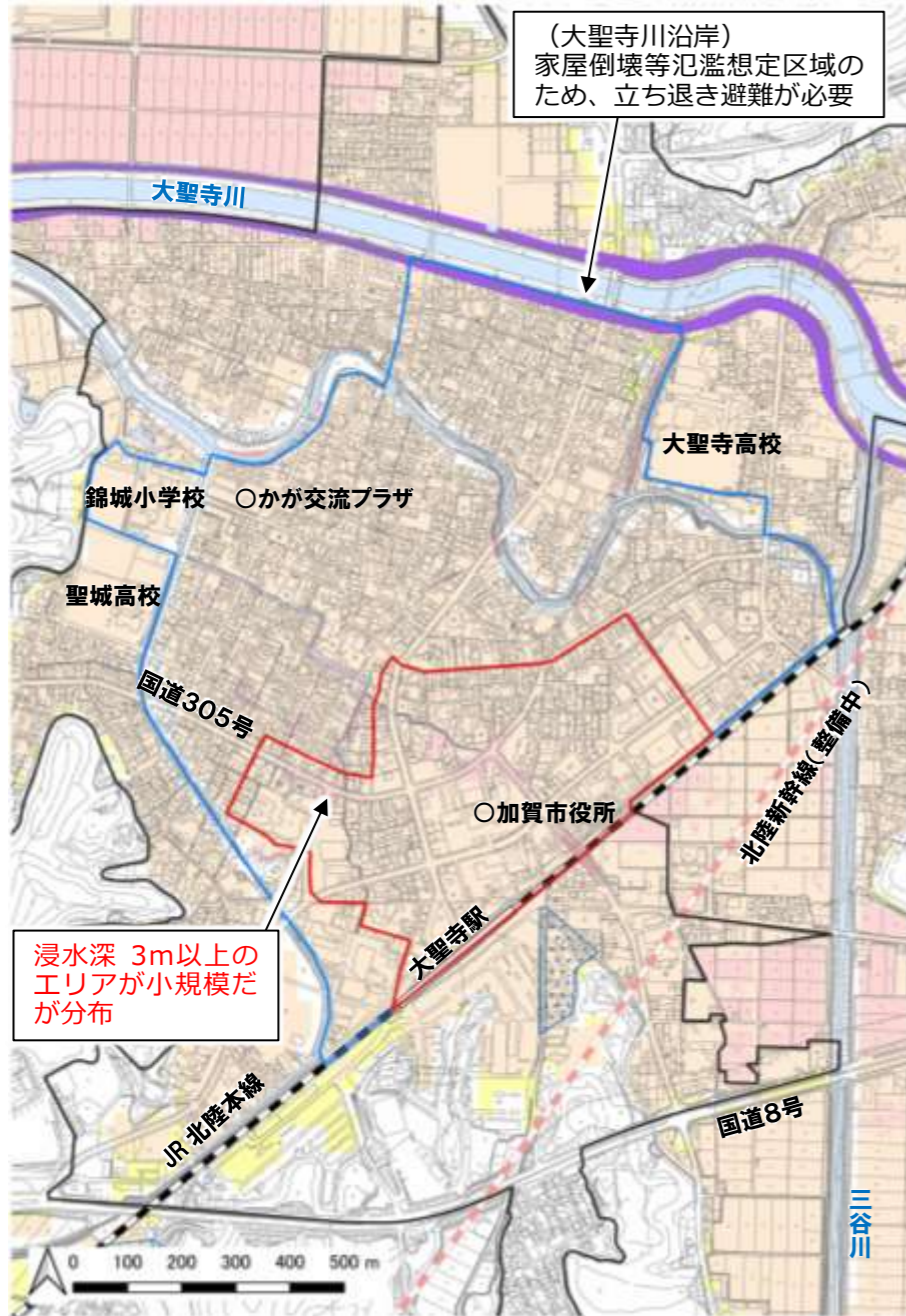
建物現況（建物階数・用途、用途地域内のみ）



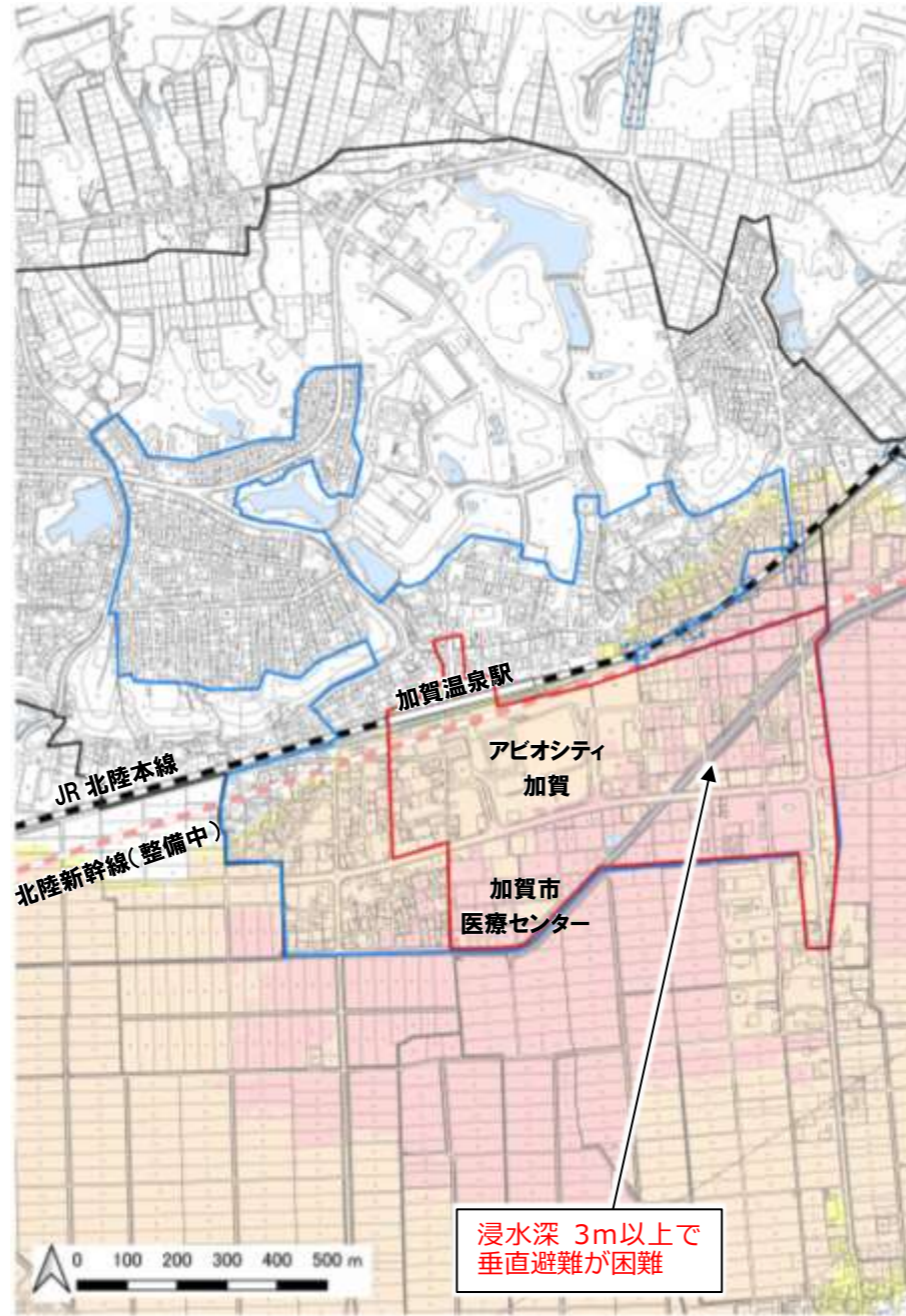
分析の観点

垂直避難は可能か？ 立ち退き避難は必要か？

大聖寺地域



作見地域



片山津地域



※山代地域、山中地域の居住誘導区域内には、浸水想定区域がないため、本資料では割愛

凡例	
	都市機能誘導区域
	居住誘導区域
	用途地域
	家屋倒壊等氾濫区域
	家屋倒壊等氾濫区域
	浸水実績
浸水深(L2)	
	0.5m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	3.0m～5.0m未満の区域
	5.0m～10.0m未満の区域
	10.0m～20.0m未満の区域

【まとめ】

- 今後、防災指針の策定に向け、「ハザード情報」と「都市情報」を重ね合わせて、様々な観点から地域の防災上の課題を把握していきます。
- 新たに公表された想定最大規模の水害時において、「浸水深3m以上」もしくは「家屋倒壊等氾濫想定区域」に該当する居住誘導区域があり、防災減災の取組検討が必要です。

3. 市民アンケート結果

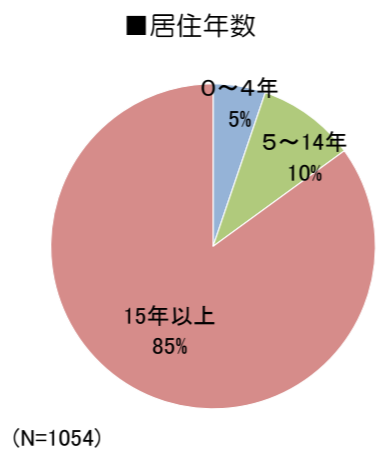
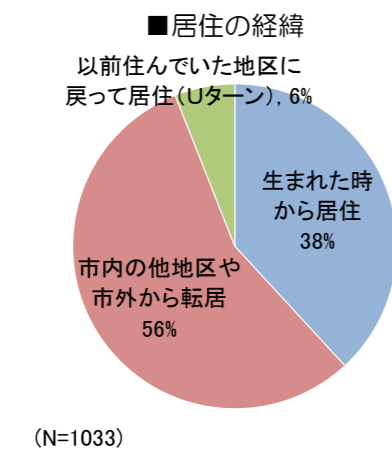
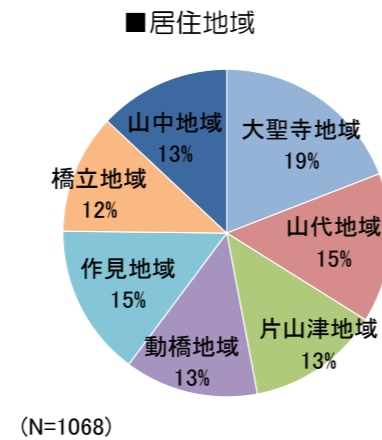
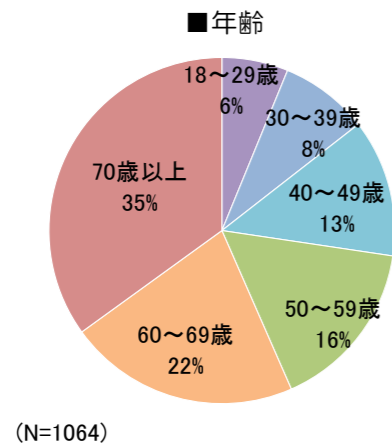
(1) 調査概要

①調査方法及び配布・回収状況

- 調査方法：18歳以上の市民3,000人を無作為抽出（地域を考慮）し、郵送により配布・回収
- 調査期間：令和4年6月17日～7月6日（前回〔平成29年度〕：平成29年10月28日～11月9日）
- 配布回収数：回収数1,070票、回収率35.7%（回収の内訳：郵送924票、Web146票）
（前回：回収数1,053票、回収率35.1%）

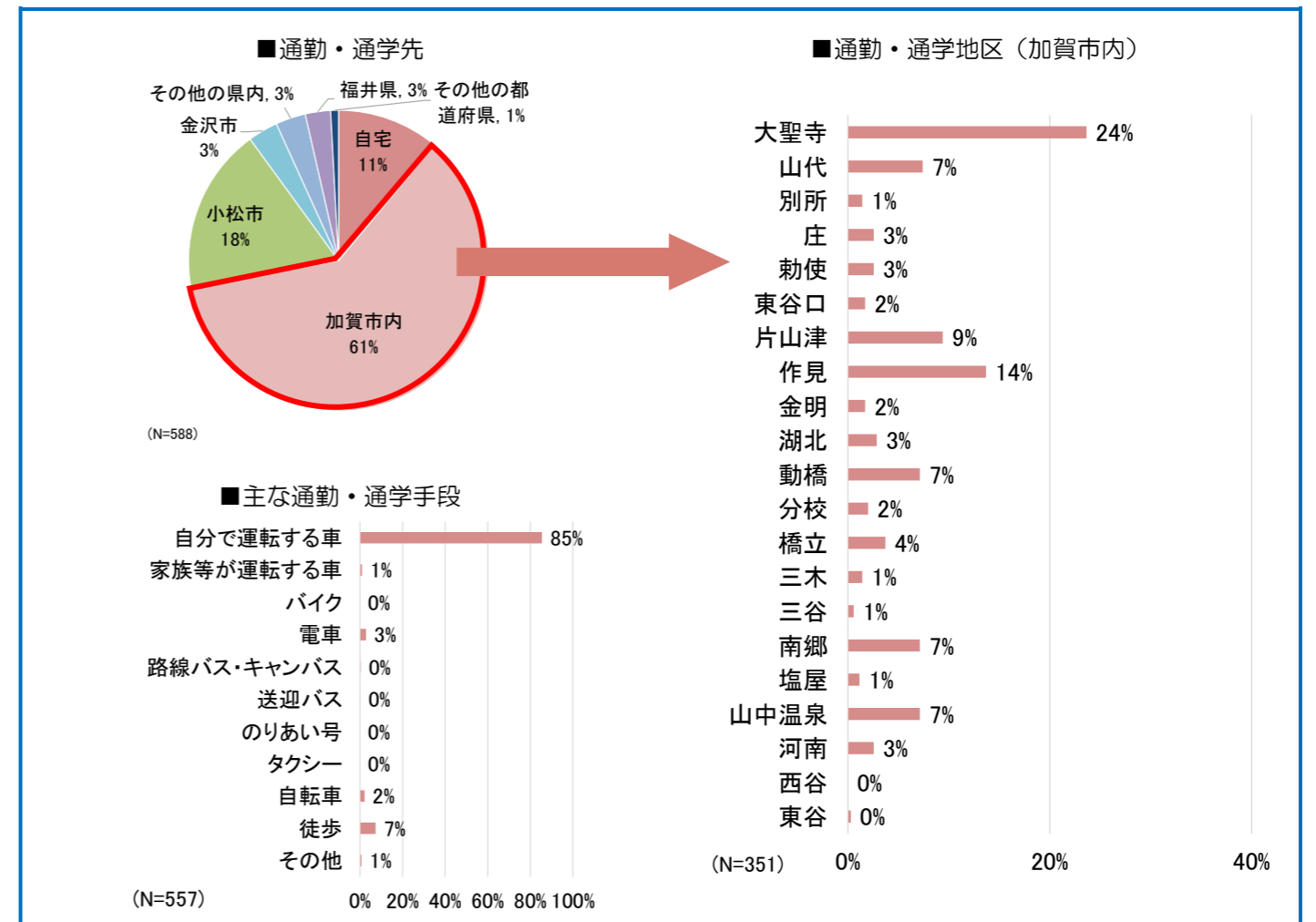
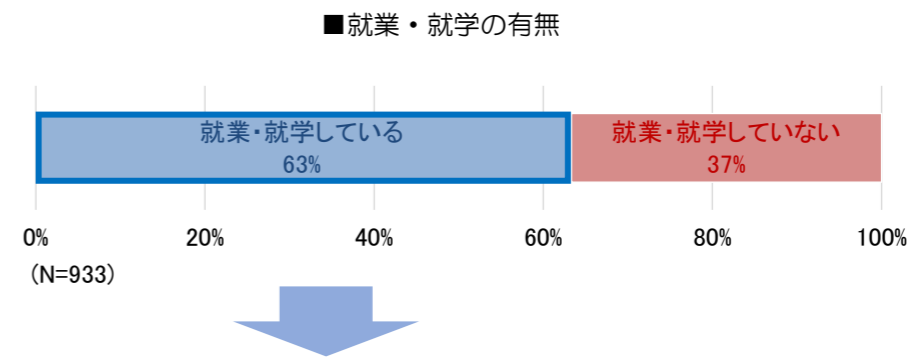
②回答者属性（問1①②⑦⑧）

- 年齢：20～40歳代はそれぞれ約10%、50～60歳代はそれぞれ約20%、70歳以上（35%）がやや多い
【前回 20歳代：7%、30歳代：8%、40歳代：14%、50歳代：16%、60歳代：24%、70歳以上：32%】
- 居住地域：各地域とも10%台と、ほぼ同様の割合が得られている
【前回 大聖寺：17%、山代：16%、片山津：12%、動橋：13%、作見：12%、橋立：13%、山中：16%】
- 居住の経緯：市外・他の地区からの転居（56%）が、生まれた時から居住（38%）より多い
【前回 生まれた時から居住：44%、市外・他の地区からの転居：50%、Uターン：6%】
- 居住年数：15年以上（85%）が大半を占める
【前回 15年以上：85%、5～14年未満：9%、0～4年未満：7%】



③通勤・通学について（問1③④⑤⑥）

- 就業・就学の有無：就業・就学しているが63%と、就業・就学していない（37%）より多い
- 通勤・通学先：加賀市内が61%と最も多く、次いで小松市（18%）、自宅（11%）が多い
【前回 自宅：21%、加賀市内：59%、小松市：13%、金沢市：3%、その他の県内：2%、福井県：2%、その他の都道府県：1%】
- 通勤・通学地区（加賀市内）：大聖寺が24%と最も多く、次いで作見（14%）、片山津（9%）が多い
- 主な通勤・通学手段：自分で車を運転される方（85%）が大半を占める



(2) 日常生活で利用する施設について

①利用頻度・主な利用場所について（問2①②）

利用回数	<ul style="list-style-type: none"> “飲食店・日用品店・コンビニ”は「ほぼ毎日」が22%を占め、日常的な利用がうかがえる一方、“ショッピングセンター・デパート”は利用頻度が下がります。その他の施設については利用頻度がやや低くなりますが、“郵便局・金融機関”は「月に数回程度」が約6割を占め、やや利用頻度の多い施設となっています。
利用場所	<ul style="list-style-type: none"> 利用頻度の高い“飲食店・日用品店・コンビニ”でも居住地域での利用は3割程度となっています。また、“公民館・集会所”や“幼稚園・保育園・認定子ども園”、“高齢者福祉施設(通所型のみ)”で「加賀市内(お住まいの地区)」が多く占めています。 “飲食店”や“ショッピングセンター・デパート”などは居住地区よりも市内利用、また小松市での利用が多くなっています。

■日常生活に関連する施設ごとの利用回数・利用場所

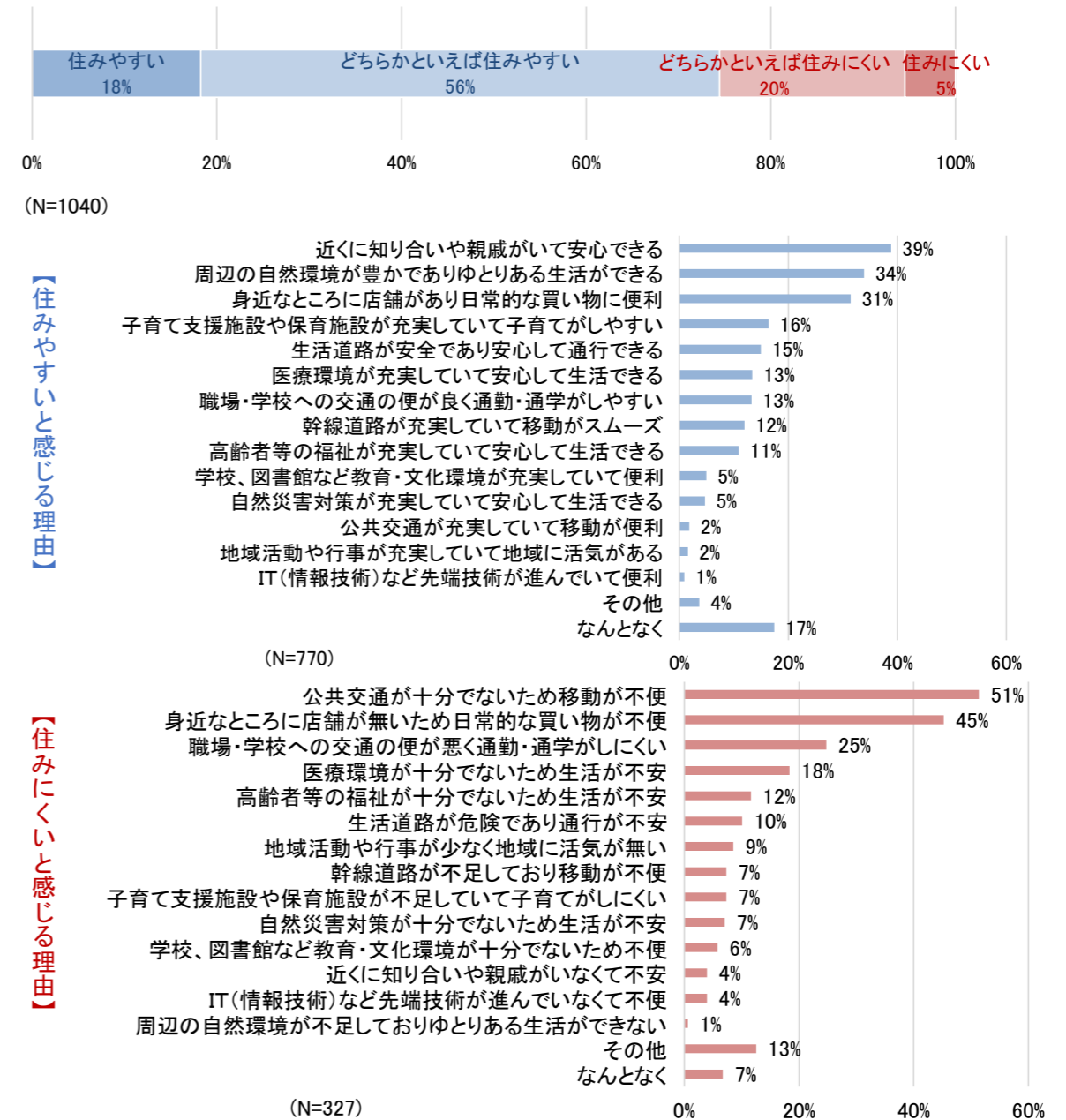
施設の種類	①利用頻度						②利用場所							
	ほぼ毎日	週3回以上	週1~2回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない	加賀市内(お住まいの地区)	加賀市内(お住まいの地区以外)	小松市	金沢市	その他の石川県内の市町	福井県	その他の都道府県	インターネット等
飲食店・日用品店・コンビニ	22%	30%	32%	12%			30%			61%				5%
飲食店	15%	40%	24%	17%			10%	57%	23%	4%	5%			
ショッピングセンター・デパート	3%	6%	22%	43%	17%	8%	9%	50%	26%	6%	6%			
病院・診療所	3%	38%	45%	13%			19%	65%	12%					
高齢者福祉施設(通所型のみ)			97%				51%		47%					
幼稚園・保育園・認定子ども園	5%		93%				53%		44%	3%				
公民館・集会所	3%	10%	28%	58%			80%		19%					
図書館・博物館・美術館	9%	25%	64%				19%	61%	13%	4%				
劇場・映画館・文化センター	4%	36%	59%				3%	6%	65%	14%	5%	4%		
郵便局・金融機関	7%	56%	27%	7%			36%	58%	3%					
市役所・支所・出張所	7%	57%	35%				25%	75%						

(3) 加賀市の住みやすさについて

①加賀市を住みやすいところだと思っているか（問6）、その理由（問7、8）【3つまで回答】

- 「住みやすい」(18%)「どちらかといえば住みやすい」(56%)となっており、「どちらかといえば住みにくい」(20%)、「住みにくい」(5%)を大きく上回っており、“加賀ぐらし”に満足している状況がうかがえます。
- 住みやすい理由として「コミュニティや近所づきあい」「豊かな自然環境」「買い物の利便性」が高くなっており、一方で住みにくい理由として「公共交通」「買い物の利便性」「通勤・通学の交通の便」が挙げられています。
- 住みやすい・住みにくい両方において「買い物の利便性」が住みやすさの判断の大きな要因となっていることが想定されます。

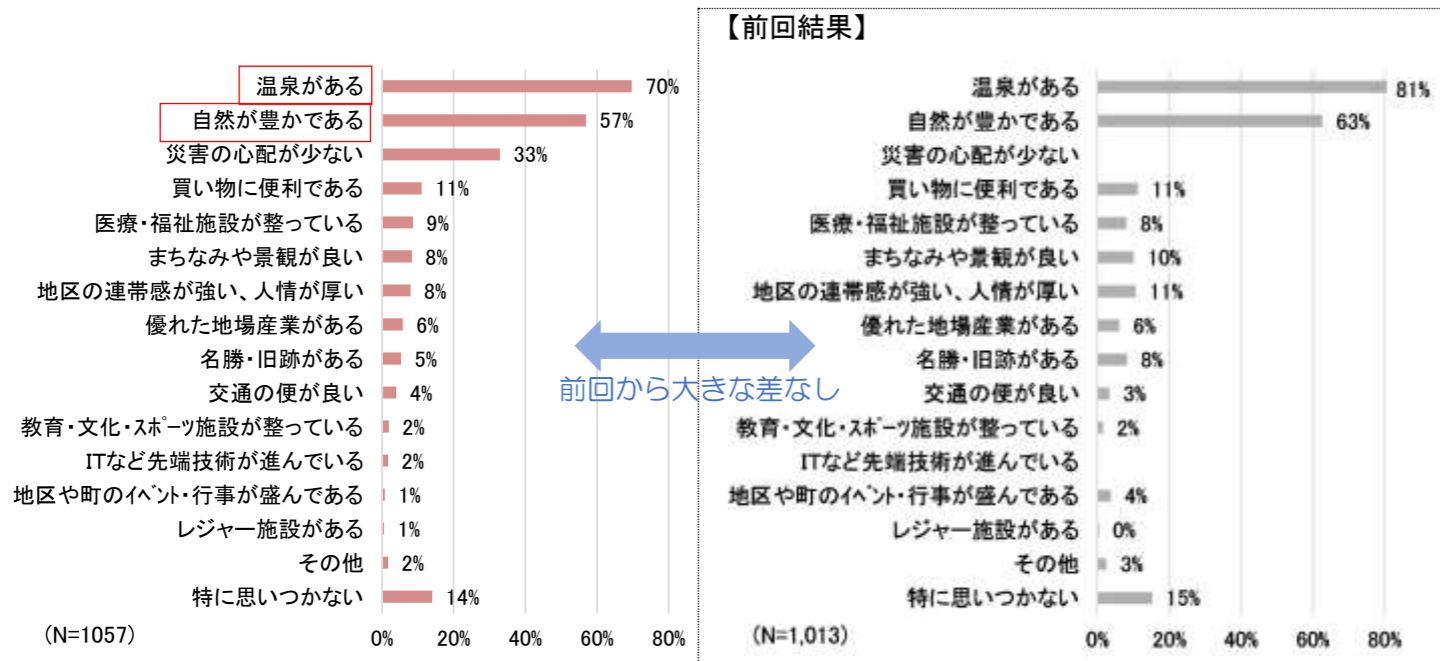
■住みやすさとその理由



(4) 加賀市全体のことについて

①加賀市の「魅力」は何か（問3）【3つまで回答】

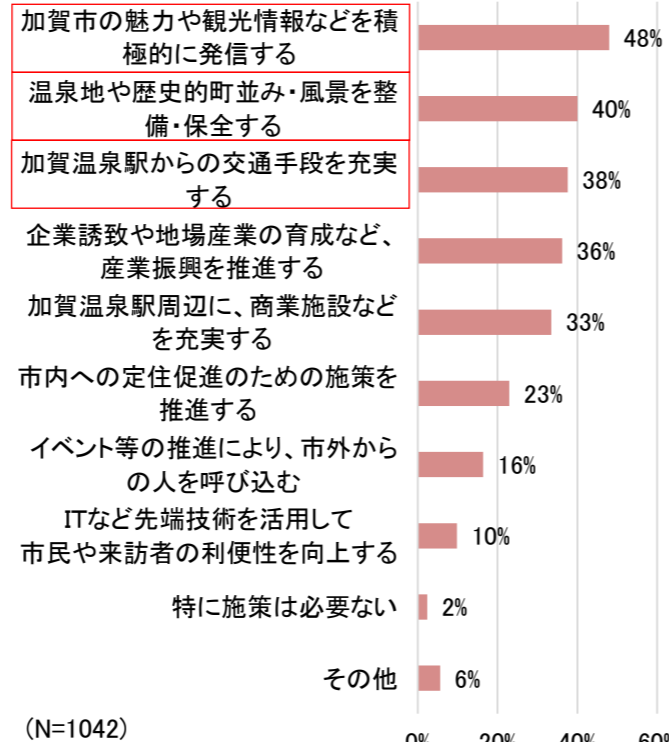
- 「温泉がある」が70%で最も多く、次いで「自然が豊かである」が57%、「災害の心配が少ない」が33%となっています。
- 前回アンケートと比べ傾向に大きな差はなく、「温泉」「自然」が加賀市の大きな魅力であることが表れています。



②北陸新幹線金沢・敦賀間開業をきっかけとして、加賀市が発展するための施策（問4）

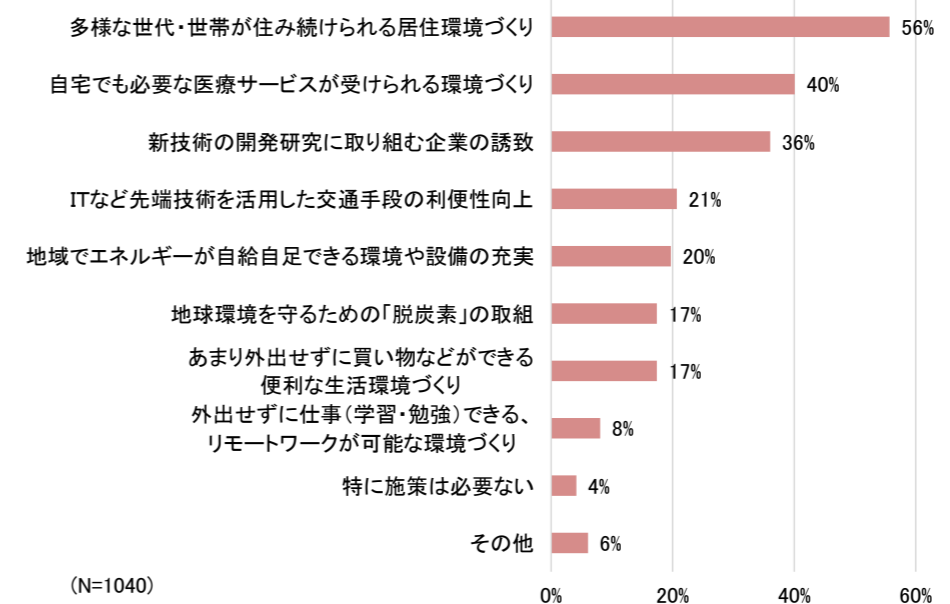
【2つまで回答】

- 「加賀市の魅力や観光情報などを積極的に発信する」が48%で最も多く、次いで「温泉地や歴史的町並み・風景を整備・保全する」が40%、「加賀温泉駅からの交通手段を充実する」が38%となっています。
- 新幹線の整備をきっかけとした、観光振興のための情報発信やまちなみ整備（保全）が求められています。



③未来型・先端的都市づくりに向けて、今後必要な新しい生活様式やまちの将来像（問5）

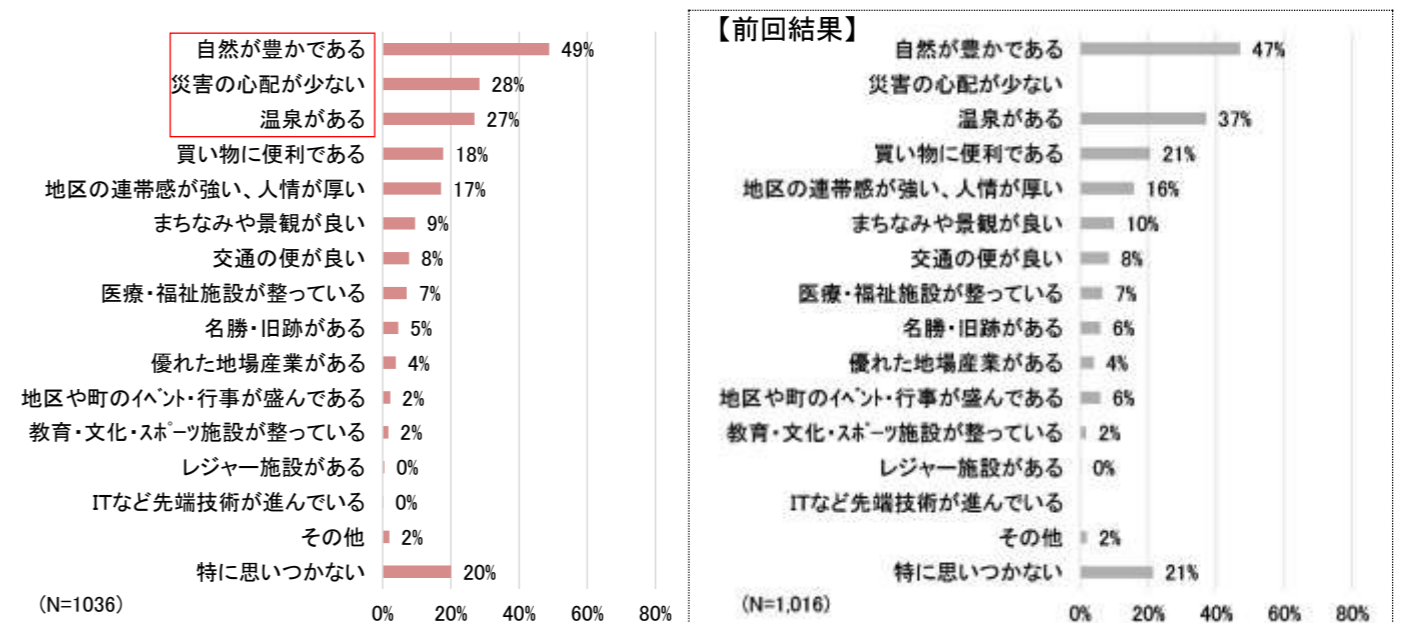
- 「多様な世代・世帯が住み続けられる居住環境づくり」が56%で最も多く、次いで「自宅でも必要な医療サービスが受けられる環境づくり」が40%、「新技術の開発研究に取り組む企業の誘致」が36%となっています。
- 未来に向けた新たな取り組みとして、これらの施策の推進が求められています。



(5) 居住地区の魅力について

①居住地区の「魅力」は何か（問9）【3つまで回答】

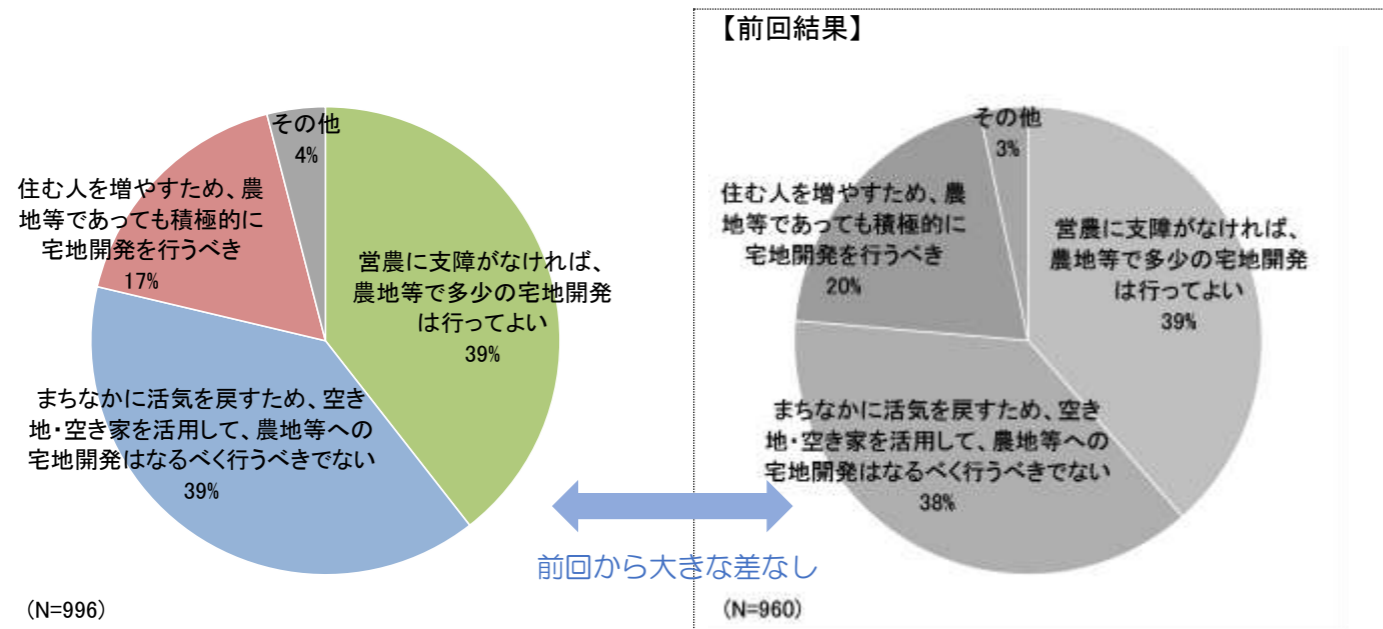
- 「自然が豊かである」が49%で最も多く、次いで「災害の心配が少ない」が28%、「温泉がある」が27%となっており、これらの要素が地域の魅力と考えられます。
- 特に今回追加項目となった「災害の心配が少ない」が上位（2位）を占めることとなり、今回の調査で災害に対する関心の高さが明確となっています。



(6) 居住地区の土地利用について

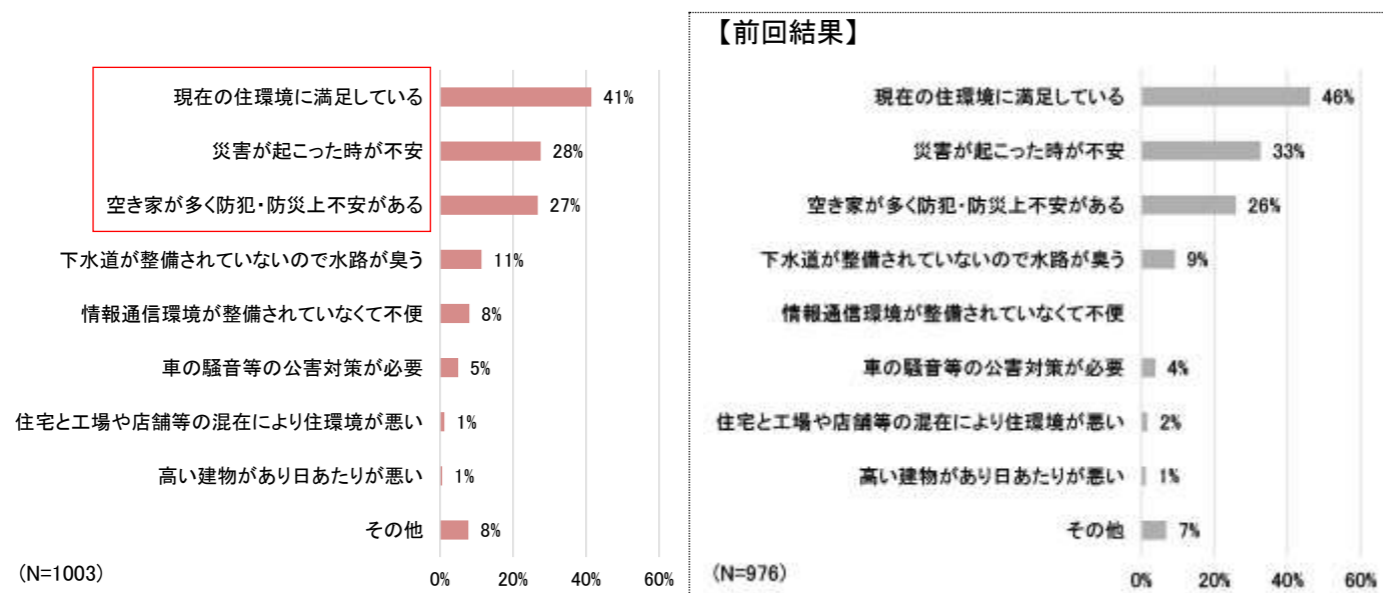
①空き地・空き家が増える一方、農地等での宅地開発が拡大する場合について（問 10）

- 「営農に支障がなければ、農地等で多少の宅地開発は行ってよい」、「まちなかに活気を戻すため、空き地・空き家を活用して、農地等への宅地開発はなるべく行うべきでない」が39%と同程度で最も多くなっています。一方、無条件に開発を望む「住む人を増やすため、農地等であっても積極的に宅地開発を行うべき」は17%となっており、営農環境を守り、農地等を適切に保全する声が多くなっています。
- 前回アンケートと比べ大きな差はなく、農地等を適切に保全する意向がうかがえます。



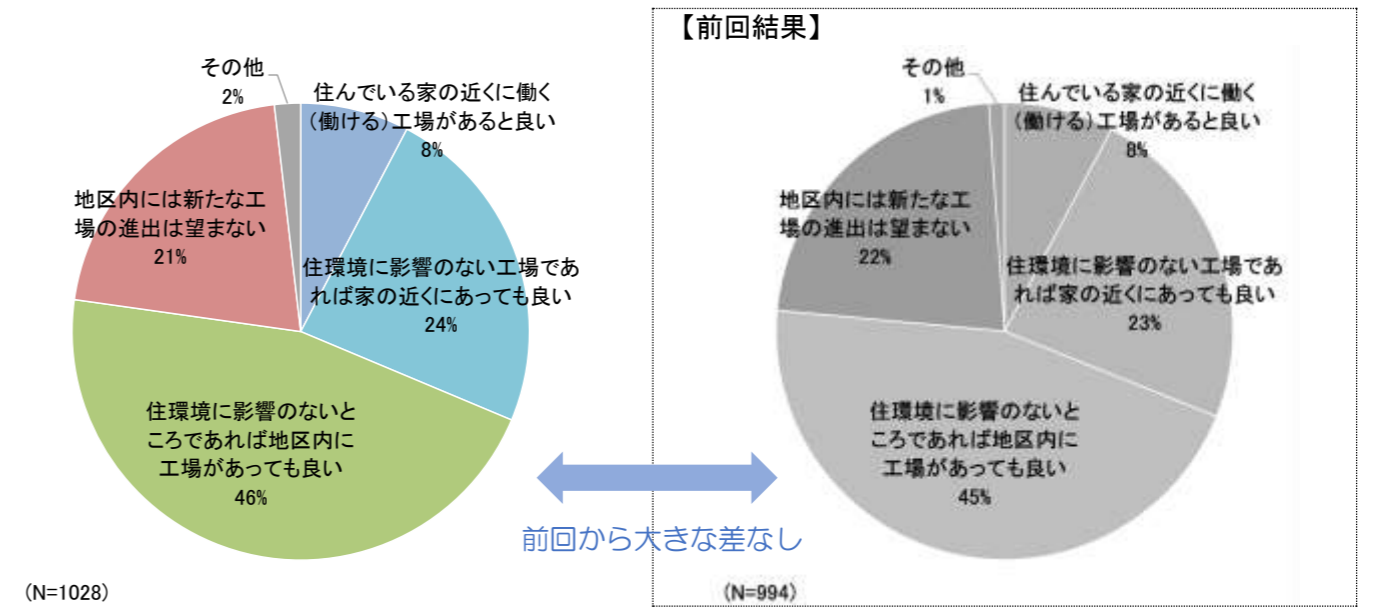
②居住地区の住まい環境について（問 11）【2つまで回答】

- 「現在の住環境に満足している」が41%で最も多く、住環境としては一定の満足が得られていることがうかがえる一方で、「災害が起こった時が不安」が28%、「空き家が多く防犯・防災上不安がある」が27%となっており、住環境に関しては、安全・安心への関心が高いことがうかがえます。



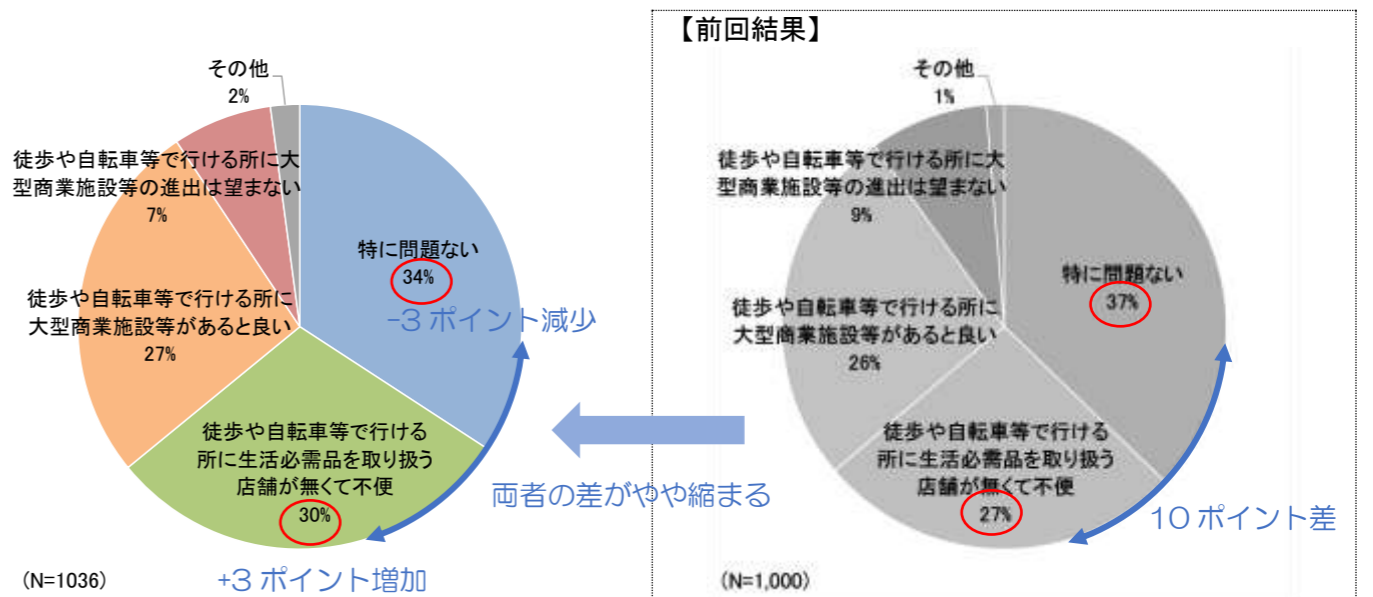
③居住地区での工場立地について（問 12）

- 「住環境に影響のないところであれば地区内に工場があっても良い」が46%で最も多く、次いで「住環境に影響のない工場であれば家の近くにあっても良い」が24%、「地区内には新たな工場の進出は望まない」が21%となっています。
- 前回アンケートと比べ大きな差はなく、工場の進出の際には、既存住環境への配慮が必要であることがうかがえます。



④居住地区の商業施設の状況について（問 13）

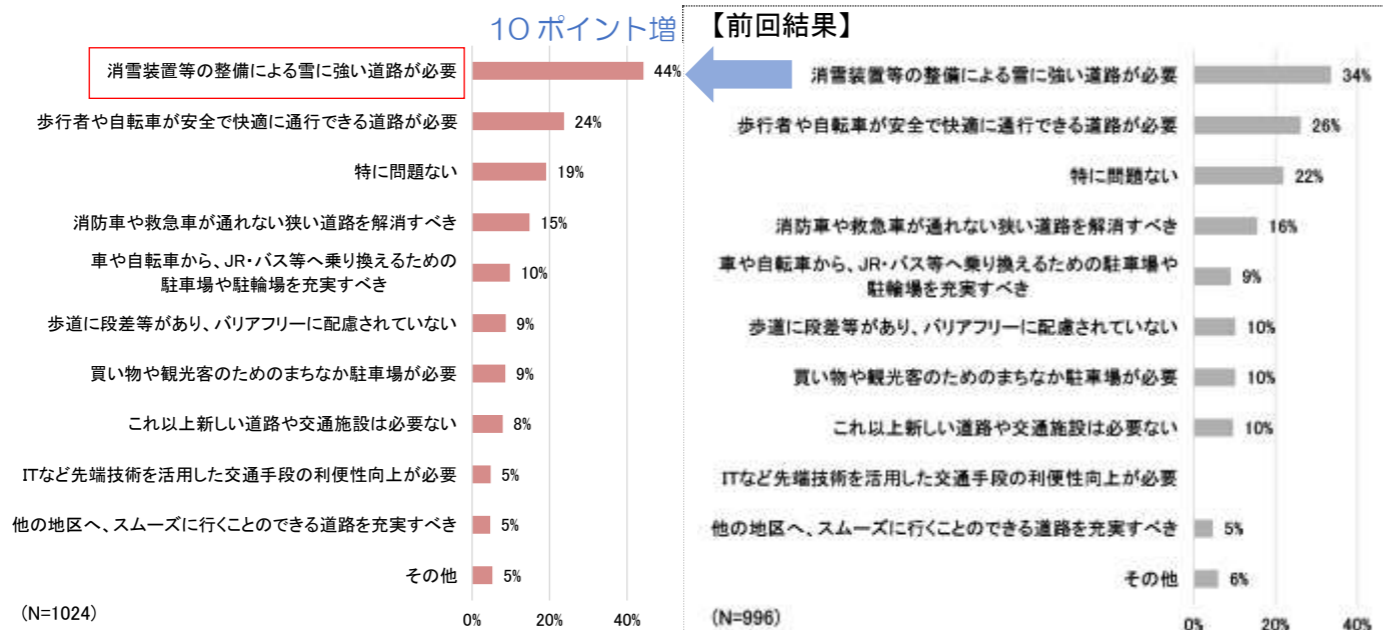
- 「特に問題ない」が34% (-3ポイント)で最も多く、地区内の現状の商業機能として大きな不満はないことがうかがえますが、一方で「徒歩や自転車等で行ける所に生活必需品を取り扱う店舗が無くて不便」が30% (+3ポイント)となり、両者の差が若干縮まっており、徒歩圏における利便施設へのニーズの若干の高まりがうかがえます。



(7) 居住地区の個別分野の取組について

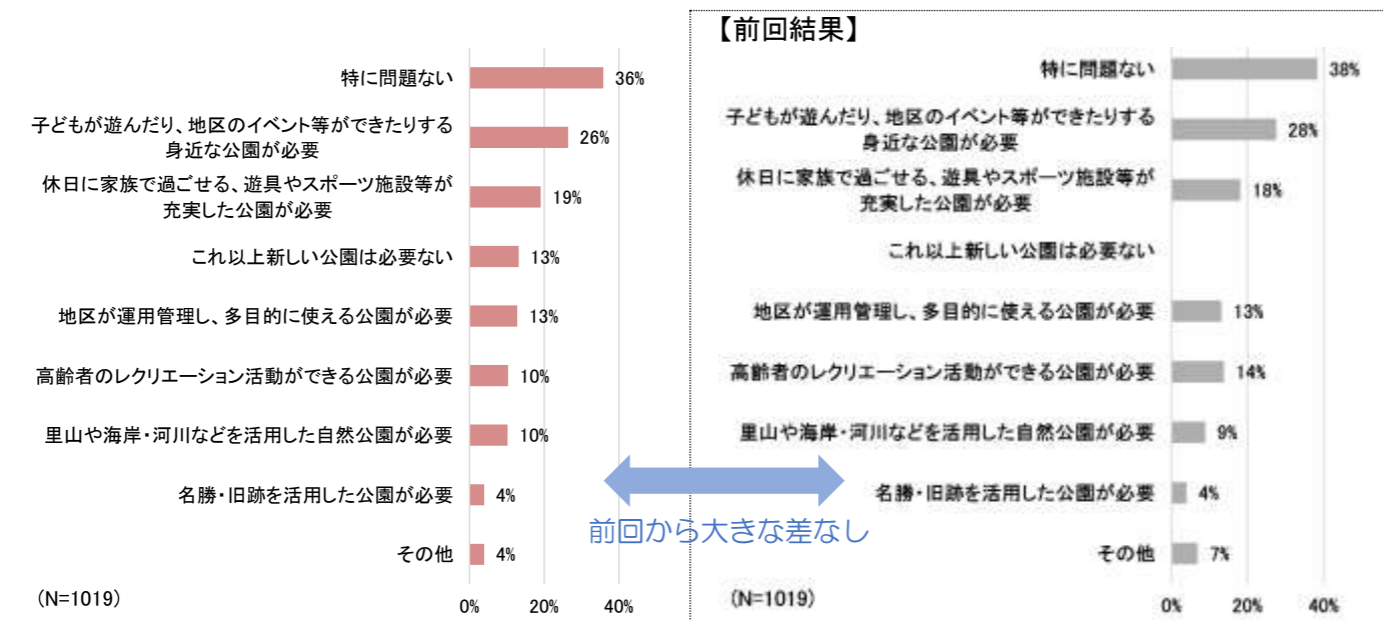
①居住地区の道路や交通施設について（問 14）【2つまで回答】

- 「消雪装置等の整備による雪に強い道路が必要」が44%で最も多く、前回よりも10ポイント増加しています。消雪に関する対策が求められている状況がうかがえます。
- その他の項目は、「歩行者や自転車が安全で快適に通行できる道路が必要」が24%、「特に問題ない」が19%と、前回アンケート結果から大きな違いはみられません。



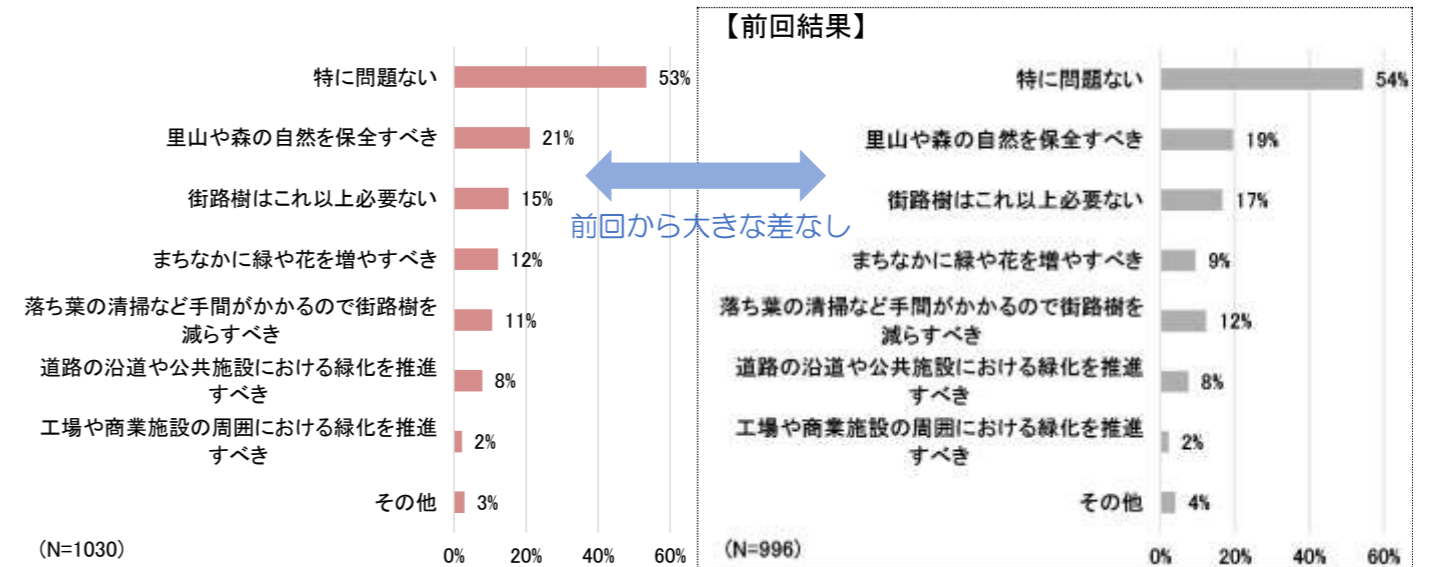
②居住地区の公園について（問 15）【2つまで回答】

- 「特に問題ない」が36%で最も多く、現状の公園に対して大きな不満はないことがうかがえます。次いで「子どもが遊んだり、地区のイベント等ができてりする身近な公園が必要」が26%、「休日に家族で過ごせる、遊具やスポーツ施設等が充実した公園が必要」が19%となっています。
- 「これ以上新しい公園は必要ない」（新設問）が13%あることから、公園に対する満足度・充足度が一定数みられていると考えられます。



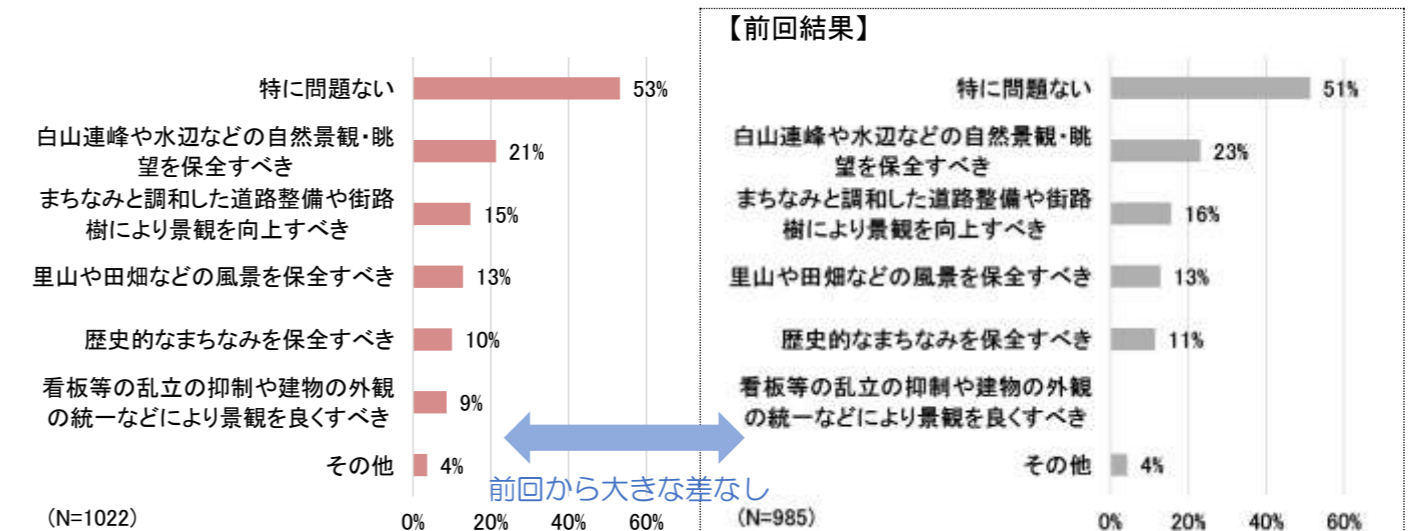
③居住地区の緑について（問 16）【2つまで回答】

- 「特に問題ない」が53%で最も多く、現状の緑に対して大きな不満はないことがうかがえます。具体的な意見としては、「里山や森の自然を保全すべき」が21%、「街路樹はこれ以上必要ない」が15%となっています。
- 前回アンケート結果から、大きな違いはみられません。



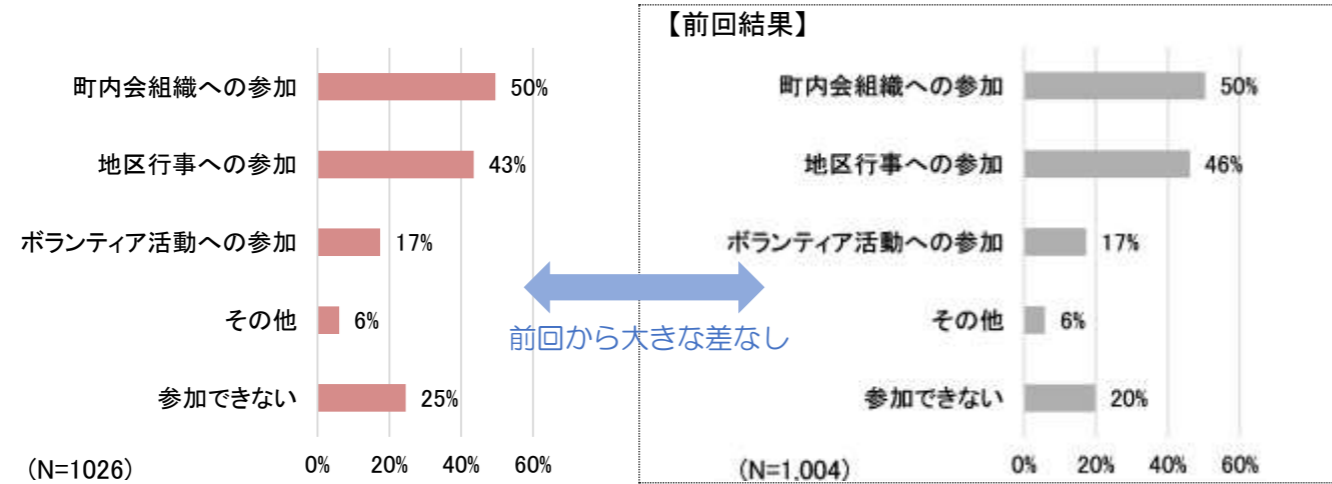
④居住地区の景観について（問 17）【2つまで回答】

- 「特に問題ない」が53%で最も多く、景観対策に対して大きな不満はないことがうかがえます。具体的な意見としては、「白山連峰や水辺などの自然景観・眺望を保全すべき」が21%、「まちなみと調和した道路整備や街路樹により景観を向上すべき」が15%となっています。
- 前回アンケート結果から、大きな違いはみられません。



⑤まちづくり活動の参加の仕方について（問21）【該当するもの全て】

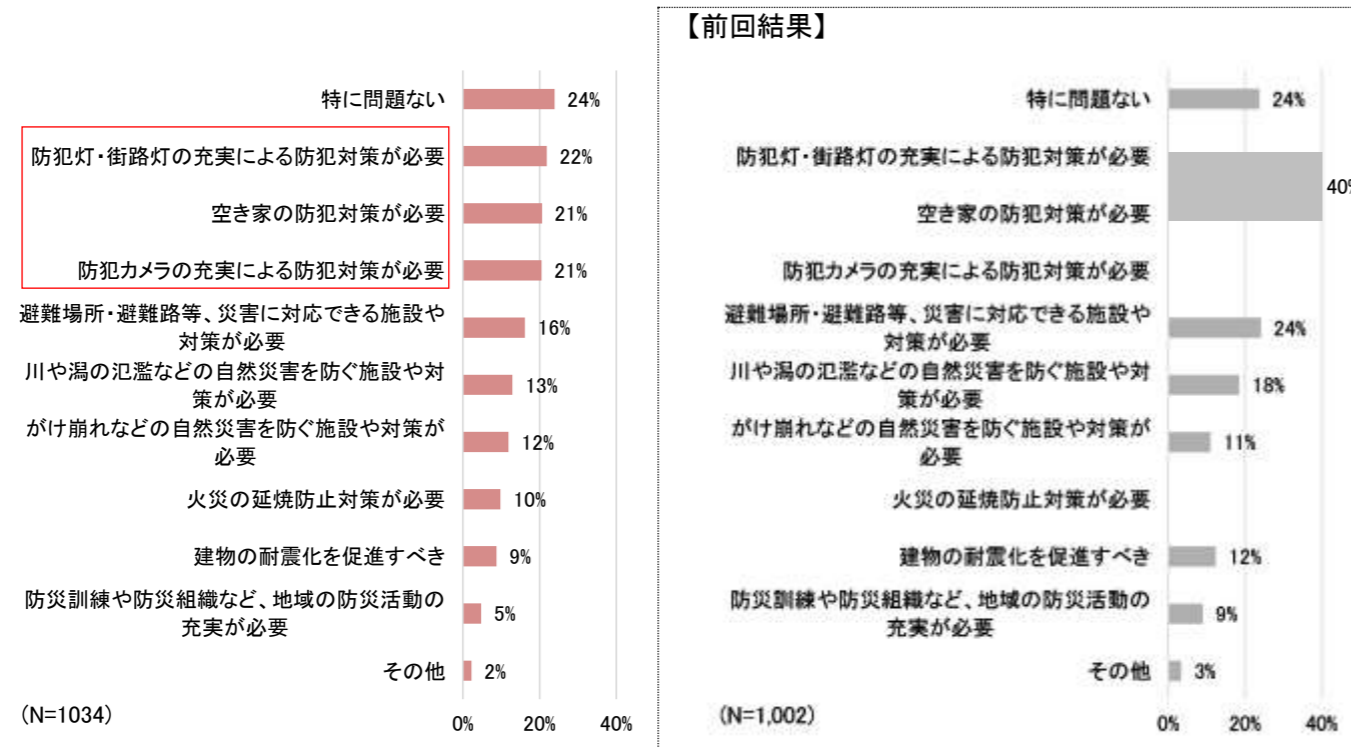
- 「町内会組織への参加」が50%で最も多く、次いで「地区行事への参加」が43%、「参加できない」が25%となっています。
- 前回アンケート結果との大きな違いはみられません。



(8) 居住地区の防災・防犯について

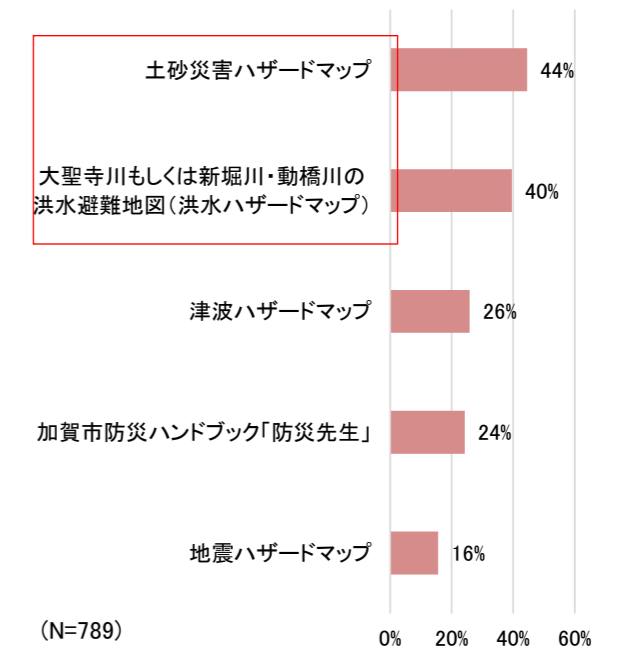
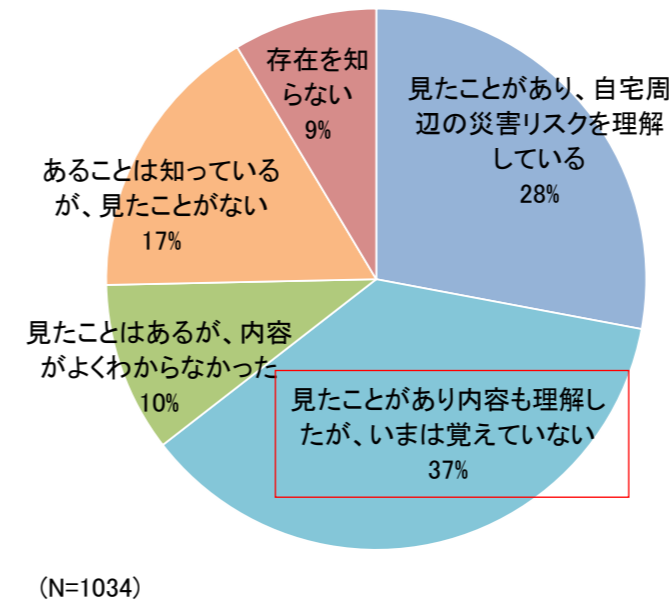
①居住地区の防災・防犯対策について（問18）【2つまで回答】

- 「特に問題ない」が24%と最も多い一方、ほぼ同程度で「防犯灯・街路灯の充実による防犯対策が必要」(22%)、「空き家の防犯対策が必要」(21%)、「防犯カメラの充実による防犯対策が必要」(21%)が上位を占めており、これらへの対策が重要な改善事項と考えられている状況がうかがえます。



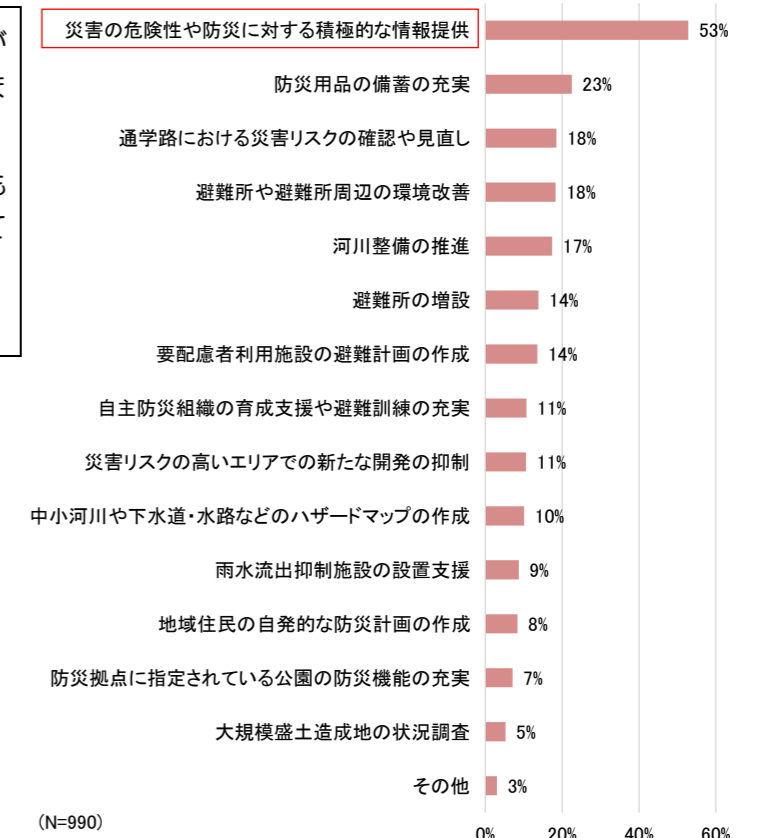
②防災マップの認知度について（問19）

- 「見たことがあり内容も理解したが、いまは覚えていない」が37%と最も多く、次いで「見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解している」が28%となっています。「存在を知らない」は9%程度であり、防災マップに対する一定の認知があることがうかがえます。
- 確認したことがある防災マップは「土砂災害ハザードマップ」が44%、「洪水ハザードマップ」が40%と多くを占めています。



③災害を減らすための対策について（問20）【3つまで回答】

- 「災害の危険性や防災に対する積極的な情報提供」が53%と最も多く、他の項目を大きく上回っています。
- 前述のハザードマップの周知徹底とともに、今後も情報提供を軸とした防災対策の推進が求められていることがうかがえます。



4. スマートシティ化に関して

(1) 全国におけるスマートシティの流れ

①スマートシティ推進の背景

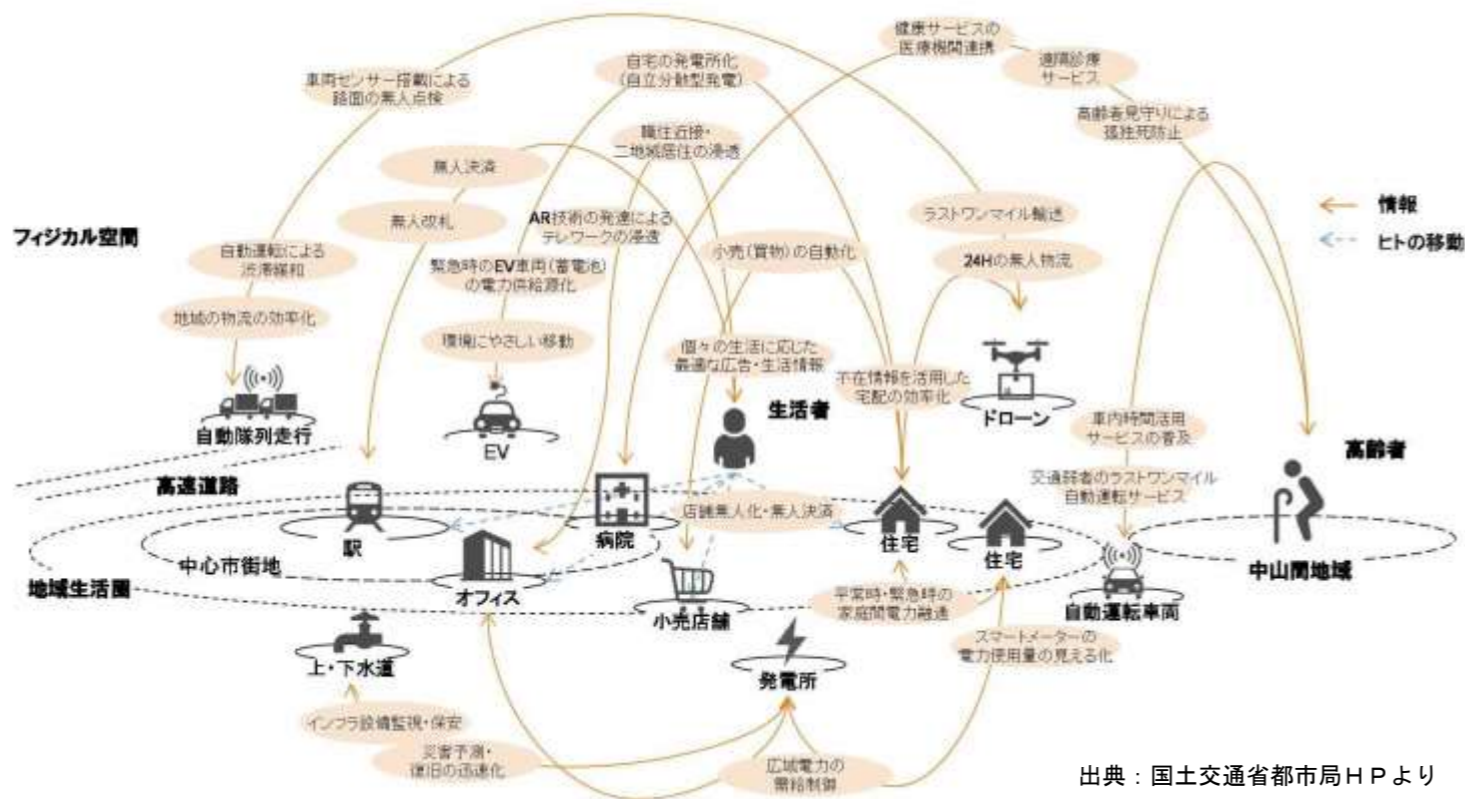
現在、我が国においては、社会経済情勢の変化に伴い、人口減少・超高齢社会、厳しい財政制約等の諸課題が顕在化する中、住民生活を支える様々なサービス機能が確保された持続可能な都市構造を実現していくことが求められています。

特に人口減少が顕著にみられる加賀市においては、前述のように人口減少・超高齢社会に関する問題は避けて通れない課題であり、新たなデジタル技術をあらゆる分野に適用していくことが求められています。

②スマートシティとは

スマートシティとは、2020年代に日本で導入が検討されている都市計画であり、IoT(Internet of Things)、ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術の進展が著しい中、国の「第5期科学技術基本計画」で示された社会像「Society5.0」の一環として企画立案され、「ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域」と内閣府で定義されています。つまり、スマートシティの推進とは、新技術を活かして住みやすい都市をつくることです。

【まちづくりに生かされる技術のイメージ】



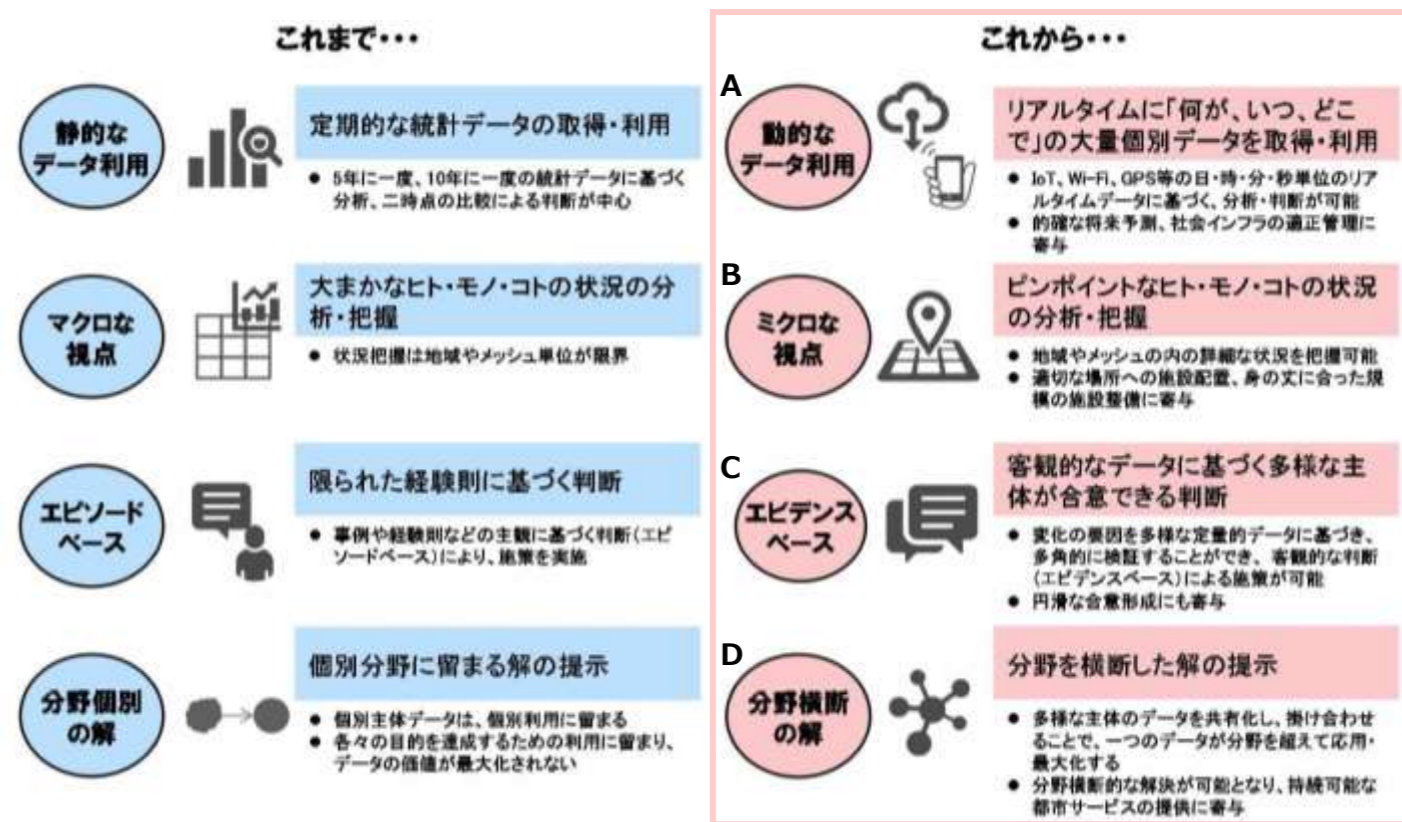
出典：国土交通省都市局HPより

(2) スマートシティの実現によるまちづくり分野への影響

スマートシティの実現により、まちづくりに関わる行政や事業者等の計画、整備、管理、運営の手法は、下図が示す4つの観点により、大きく変わります。これらの観点により、行政サービスの効率化をはじめ、社会インフラのより最適な利用、安全・安心の確保等が図られ、都市の利便性、効率性、生産性の向上へとつながることが期待できます。そのため、今後のまちづくり分野の計画では、データの蓄積状況や利用環境の整備、合意形成の形の変化等により、これまでとは異なる視点やプロセスで策定し、運用していくことが考えられます。

人の交流や快適性の向上をより高次の実現できる可能性をもったスマートシティへの取組は、コンパクトシティ政策をはじめとする都市計画分野の推進において、重要な原動力となることが期待されます。

【スマートシティの実現によるまちづくり分野での視点】



出典：国土交通省都市局資料を一部加工

●今後の都市計画マスタープラン・立地適正化計画のあり方

・A~Dの観点により、今後の都市計画マスタープランや立地適正化計画、その他のまちづくりの計画等において、これまでと異なる視点やプロセスによる策定や計画運用が期待できる。

●スマートシティの取組とコンパクトシティ施策の関連

- ・都市機能や居住が物理的に集積されることで、スマートシティによる動的データ利用や分野横断かつ全体最適のコンセプトの効率化・円滑化
- ・拠点間のネットワークにおける、効率的な人やモノの流れ
- ・スマートシティの取組を高次の実現・体験できる空間としての、まちなか環境の魅力向上 等

(3) 加賀市におけるスマートシティの流れ

①スマートシティ加賀推進計画 (R3.3) の概要

加賀市ではデジタル技術をはじめとした先進技術の急速な進展を背景に、令和2年3月に「加賀市スマートシティ宣言」を行い、令和3年3月に「スマートシティ加賀推進計画」を策定しました。

【スマートシティ加賀推進計画の位置付け】



計画では、市の課題と市民の困りごとを解決していくとともに、人間中心の未来社会の実現に向けて、先端技術を活用したイノベーション推進を図るため、重点的に推進すべき政策（9の施策、32の事業）を位置付けています。

【基本理念】

基本理念：人間中心の未来社会の実現

- 戦略1 デジタルファースト データ駆動型のまちづくり
- 戦略2 クリエイティブ 創造的なまちづくり
- 戦略3 スマートシチズン 市民との共創によるまちづくり

【施策の体系】

- 施策1 データを最大限に活かした地域課題の解決
- 施策2 都市機能の高度化
- 施策3 質の高い市民サービスの提供・効率的な自治体運営
- 施策4 先端的サービスの社会実装実験を通じた先進企業や高度人材の呼び込み
- 施策5 先端技術×伝統文化×地域資源の活用による魅力・賑わいの創出
- 施策6 経済活動を支える低炭素・循環型の都市づくり
- 施策7 市民と共に学び、共創し、よりよく進化し続けるまちづくり
- 施策8 健康で自立した生き方の実現
- 施策9 誰もが自分らしく生きられるまちづくり

32の事業

■施策1：データを最大限に活かした地域課題の解決

- データ連携基盤活用等事業
様々なデータをデータ連携基盤で連携させることにより各種デジタルサービスを一通りで住民に提供し、QOL（クオリティ・オブ・ライフ。生活の質）向上を目指します。
- オープンデータ化調査等検討事業
加賀市が保有する台帳のデジタル化及びオープンデータ化に向けての調査及び検討を行います。

■施策2：都市機能の高度化

- 都市デジタルツイン構築事業
都市の全体最適化のため、土地、交通網、エネルギー網、建物など現在の状況から取得したデータにより仮想空間上に都市を再現し、分析・シミュレーションに活用することで、地域課題の解決を目指します。
- エアモビリティ等活用事業
ドローンを自動操縦により安全に飛行させるための環境整備として、市内生活圏全域の3D地図を作成することで、エアモビリティ（ドローンなど）の新産業ビジネスの創出を図ります。
- 避難所リアルタイム混雑状況発信事業
現在、62箇所の指定避難所の開設・混雑状況を配信しているサービスに、町民会館や旅館等を臨時避難所として開設する場合の開設・混雑状況を表示する機能を追加します。

■施策3：質の高い市民サービスの提供・効率的な自治体運営

- インターネット環境強化整備事業
イノベーションセンターに高速大容量のインターネット環境を整え、都市圏と同等の仕事ができるようにすることで、企業や起業家を誘致し、産業の集積を図ります。

■施策5：先端技術×伝統文化×地域資源の活用による魅力・賑わいの創出

- MaaS推進事業
MaaSアプリの導入と事業者等の利用環境の整備を進め、システム面から公共交通を使いやすくします。

■施策6：経済活動を支える低炭素・循環型の都市づくり

- スマートハウス推進事業
「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」の観点から、ITによりエネルギー運用を最適化する「スマートハウス」の普及促進を図り、地球温暖化防止の推進に努めます。

■施策9：誰もが自分らしく生きられるまちづくり

- 空き家バンク事業
町内会などに呼びかけ登録物件数を増やし、住みやすい環境整備を支援することで、より多くの利用希望者とのマッチングを図ります。
- 空き家を活用した住宅整備事業
空き家を整備して中長期的に滞在できる環境を整えることで、定住を促します。

【まとめ】

- デジタル技術を活用したスマートシティの推進により、少子・高齢化への対応や、市民の安全・安心の確保をはじめ、様々な分野の都市問題の解決に大いに寄与することが期待できます。
- 加賀市では令和2年3月のスマートシティ宣言のもと、行政サービスの様々なデジタル化を推進しており、これらの取組を都市計画の各分野に横断的に取り入れていくことが重要です。
- しかし一方で、都市は多様な主体が多様な活動を行っている場であり、個々の取組のみでは、全体としての効果発現が難しい。加賀市の都市づくり・まちづくりは、都市全体を捉え、土地利用や交通、施設などの複数分野で横断的にスマートシティの考え方を取り入れることを、加賀市の都市計画マスタープランや立地適正化計画の基本コンセプトとします。

5. 上位計画・主な関連計画

	計画名	将来像・目標など
上位計画	①第2次加賀市総合計画	【将来都市像】 自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち ～地域の強みを活かし、ともに進める 人・まちづくり～
	②石川県都市計画区域マスタープラン	【加賀都市計画区域のテーマ】 温泉・自然・歴史文化を活かし、協働で歩む安心して暮らせるまちづくり
	③第2期加賀市まち・ひと・しごと総合戦略	【本市人口ビジョンによる目標】 令和22(2040)年に人口60,000人以上
主な関連計画	①スマートシティ加賀推進計画	【基本理念】 人間中心の未来社会の実現
	②加賀市地域公共交通計画	【基本理念】 KAGA スマート あんしん ネット ～ヒトとデジタルの融合による 誰もが移動しやすい地域公共交通の構築～
	③加賀市自転車のまち推進計画	【目指す姿】 自転車をつなぐ 楽しく 健康で 安全なまち
	④加賀市地球温暖化対策実行計画	【目指す姿】 2050年までに温室効果ガス(CO2)の排出量実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現
	⑤地域防災計画	国、県、加賀市が取り組むべき具体的な防災対策の内容を記載
	⑥景観計画	【目指す姿】 自然と歴史・文化が織り成す美しい景観の形成 ～誇りと愛着をもてるふるさとの景観づくり～

①第2次加賀市総合計画

【将来都市像】

【自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち】
～地域の強みを活かし、ともに進める 人・まちづくり～

キーワード

「自然・歴史・伝統」
「定住」「来訪」「協働」

【基本方針】

- 基本方針1: 安心の子育てと地域に根ざした教育による笑顔あふれるまちづくり
- 基本方針2: 観光と歴史、文化の振興による賑わいのあるまちづくり
- 基本方針3: ものづくりと雇用創出で、活力と勢いのあるまちづくり
- 基本方針4: いつまでも元気で健やかに暮らし続けられるまちづくり
- 基本方針5: みんなが手を取り、いきいきと安心して暮らせるまちづくり
- 基本方針6: 豊かな自然を守り育てる、美しく快適なまちづくり
- 基本方針7: 将来を見据えた、効率的な行財政で支えるまちづくり

②石川県都市計画区域マスタープラン

【加賀都市計画区域のテーマ】

『温泉・自然・歴史文化を活かし、協働で歩む安心して暮らせるまちづくり』

【基本理念】

- ①流域の恵みを感じる自然と共生したまちづくり
- ②景観と人にやさしい安全で快適なまちづくり
- ③ともに支えあう健康で心豊かなまちづくり
- ④地場産業が息づく活力と賑わいのまちづくり
- ⑤地域に学び未来への創造力を育むまちづくり
- ⑥住民自治に基づく協働・交流型のまちづくり

キーワード

「温泉・自然・歴史文化」
「協働」「安心」

③第2期加賀市まち・ひと・しごと総合戦略

【本市人口ビジョンによる目標】

「令和22(2040)年に人口60,000人以上」

キーワード

「仕事・人材」「交流」
「出産・子育て」「安全」

【基本目標】

- 基本目標1: 加賀市に仕事をつくり、安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす
- 基本目標2: 加賀市への新しい人の流れをつくる
- 基本目標3: 若い世代の出産・子育ての希望をかなえるとともに誰もが活躍できる地域社会をつくる
- 基本目標4: 時代に見合った地域をつくり、安全な暮らしを支える

6. 加賀市における課題

【現況】

【課題】

1. 加賀市の現況 (P2~4) 現況

- 加賀市の人口は昭和60年をピークに減少、地区別にみても作見地区を除き減少傾向
- 将来推計において、全てのエリアで人口減少が想定されている
- 就業者人口は平成7年をピークに減少、産業別人口も全ての産業で近年減少傾向
- 観光入り込み客数は、昭和55年をピークに、バブル経済の崩壊や新型コロナウイルスなどの影響により激減
- バス停の分布状況は、総人口の96%をカバーしているが、多くはデマンド交通となっている
- 利便施設等の分布状況は居住誘導区域を中心とした7つの拠点に集中している

現況に対する課題

- 定住促進と人口流出の歯止め
- 将来を見据えた人口規模に応じたコンパクトな都市づくり
- 若者の働く場と、担い手の確保
- (北陸新幹線開業を契機とした) 交流人口や関係人口の増加
- デマンド交通がメインとならないバス交通の構築
- 人口規模に応じた利便施設の適正配置

2. 加賀市の災害に関する動向 (P5~6)

- 近年の多発・激甚化する自然災害を受け、市民の災害への関心が高まりつつある
- 大聖寺川、動橋川の想定最大規模(1000年以上に1回)では、平野部の大部分において浸水エリアが存在
- 大聖寺や動橋地域の市街地の一部(河川沿い)が「家屋倒壊等氾濫想定区域」となっている

災害に対する課題

- 市民の生命や財産を守るための情報提供や災害対策の充実
- 浸水リスクと居住の両立に向けた都市のあり方の検討
- 浸水のレベルに応じた防災対策や誘導区域の再検討の必要性

3. 市民アンケート結果 (P7~12)

- 【魅力】 ●「温泉」「自然が豊か」などが本市の魅力として挙げられている(問3、7、9)
- 【居住環境】 ●公共交通の不便さ、店舗の少なさ等が住みにくさの理由として挙げられている(問8)
- 未来に向け、多様な世代が住み続けられる居住環境が求められている(問5)
- 【災害】 ●災害リスクについて市民の一定の認知があり、災害の危険性や防災に関する情報提供が求められている(問20)
- 災害の少なさが住みやすさの理由の一端となっている(問3、9)

市民意向に対する課題

- 本市固有の地域資源の活用による活性化
- 公共交通の充実や利便性の向上、集約された利便施設の配置
- あらゆる世代が便利で快適に暮らせる生活様式の確立
- 分かりやすく利用しやすい災害情報の提供
- 安全・安心な市民生活を維持する防災施策の実施及び拡充

4. 加賀市におけるスマートシティ化 (P13~14)

- ロボット、人工知能(AI)、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術の近年の急速な進展
- 加賀市における「スマートシティ宣言」(R2.3)、「スマートシティ加賀推進計画」(R3.3)など、スマートシティをとりいれたまちづくりを推進

スマートシティに向けた課題

- コンパクトシティとスマートシティの両輪による都市づくりの推進
- 人間中心の未来社会の実現

5. 上位・関連計画 (P15)

- 第2次加賀市総合計画：将来都市像「自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち」
- 石川県都市計画区域MP：テーマ「温泉・自然・歴史文化を活かし、協働で歩む安心して暮らせるまちづくり」
- 第2期加賀市まち・ひと・しごと総合戦略：人口減少に歯止めをかける4つの基本目標

上位・関連計画における方向性(キーワード)

- 第2次加賀市総合計画の方向性：「自然・歴史・伝統」、「定住」、「来訪」、「協働」
- 石川県都市計画区域MPの方向性：「温泉・自然・歴史文化」、「協働」、「安心」
- 第2期加賀市まち・ひと・しごと総合戦略の方向性：「仕事・人材」、「交流」、「出産・子育て」、「安全」

7. 都市計画マスタープラン・立地適正化計画の基本方針（素案）

（1）都市計画マスタープランにおける将来像

都市計画マスタープラン、立地適正化計画において実現を目指す都市像・方向性として、スマートシティや防災に関する考え方を加味し、都市づくりの将来像（テーマ）を次のように変更することを想定します。

【現計画】

**ひと・もの・地域がつながる
住んでいたい 訪れてみたい 輝きが集約されたまち**

本市には古くより培ってきた歴史・文化が多く存在しており、豊かな自然環境や温泉などの観光資源など、多くの資源を有しています。今後は、これらの資源を活用し、また、加賀を訪れる人や生活する人を増やしていくことで、本市の発展を進めていきます。

また、作見地域を本市の活力の中心と位置付けるとともに、総合計画の将来都市構造にある7つの地域拠点（大聖寺・山代・片山津・動橋・作見・橋立・山中）それぞれの特色を活かした、さらなる充実と連携を図っていくことにより、ひと・もの・地域がつながり、地域が輝き続けることができ、そして地域の魅力に共感した人たちが住み続けたい、訪れたいまちづくりを進めていきます。

課題から導き出されるキーワード

【都市に必要なもの】

- ・「ひと」・・・定住、交流
- ・「もの」・・・地域資源、観光資源、文化
- ・「地域」・・・市街地、まちなか、コミュニティ
- ・「集約」、「コンパクト」・・・現行計画、コンパクトシティ
- ・「連携」「つながる」・・・ネットワーク、協働

【都市の方向性】

- ・「便利」、「利便性」、「快適」、「未来」・・・スマートシティの方向性
- ・「安全」、「安心」・・・災害への備え
- ・「継続」・・・まちづくりの持続性、継続性

更新

反映

【改定案】

**ひと・もの・地域をつなぎ
安心 便利に 新たな価値を創出し続けるまち**

本市は古くより培ってきた歴史・文化や豊かな自然環境や温泉など、様々な資源を有していますが、人口減少や少子高齢化の進行など、生活を取り巻く環境の変化が予想されるため、定住人口や交流人口を増やすことは、本市にとって喫緊の課題となっています。

本市が抱える様々な課題を乗り越え、将来にわたり継続的に都市が発展していくためには、本市が有する豊富な地域資源を活用し、ひと・もの・地域が相互に連携することに加え、**新しい技術により安全で便利な社会を形成していくことが必要になります。**

総合計画の将来都市構造にある7つの地域拠点（大聖寺・山代・片山津・動橋・作見・橋立・山中）それぞれの特色を活かすとともに、作見地域を本市の活力の中心として位置づけ、将来にわたり便利で快適な生活が送れるよう、新しい価値を創出し続けるまちづくりを進めていきます。

（2）都市計画マスタープランにおけるまちづくりの方向性

持続的・継続的な都市の発展のためには、都市の構造のあり方、都市内・都市間の連携方法、都市の中で充実させるべきものなどを明確にした上で、都市づくりを推進していくことが必要です。

そこで、都市づくりの将来像（テーマ）を実現するために、次の4つの基本方針を階層に分け、さらに共通方針として、新技術の積極的な導入などスマートシティの考え方を追加することを想定します。

【現計画】

基本方針1：「集約・コンパクト化」

～まちなかの充実による、歩いて暮らせる集約されたまちづくり～

基本方針2：「連携・ネットワーク化」

～ひと・ものの相互連携や、道路網・公共交通網の形成・充実～

基本方針3：「都市基盤・施設の有効活用」

～住みよく快適で安全な暮らしを支える都市基盤・施設の確保・活用～

基本方針4：「地域の魅力・活力の創出」

～地域活性化の原動力となる、自然・文化・産業の発展と人材の確保～

【改定案】

基本方針1：「集約・コンパクト化」

～まちなかの充実による、都市の機能が集約されたまちづくり～

基本方針2：「連携・ネットワーク化」

～ひと・ものの相互連携や、道路網・公共交通網の形成・充実～

基本方針3：「都市基盤・施設の有効活用」

～快適で安全な暮らしを支え、住みたくする都市基盤・施設の確保・活用～

基本方針4：「地域の魅力・活力の創出」

～地域活性化の原動力となる、自然・文化・産業の発展と人材の確保～

共通方針：「未来型の都市基盤・生活様式の創出」

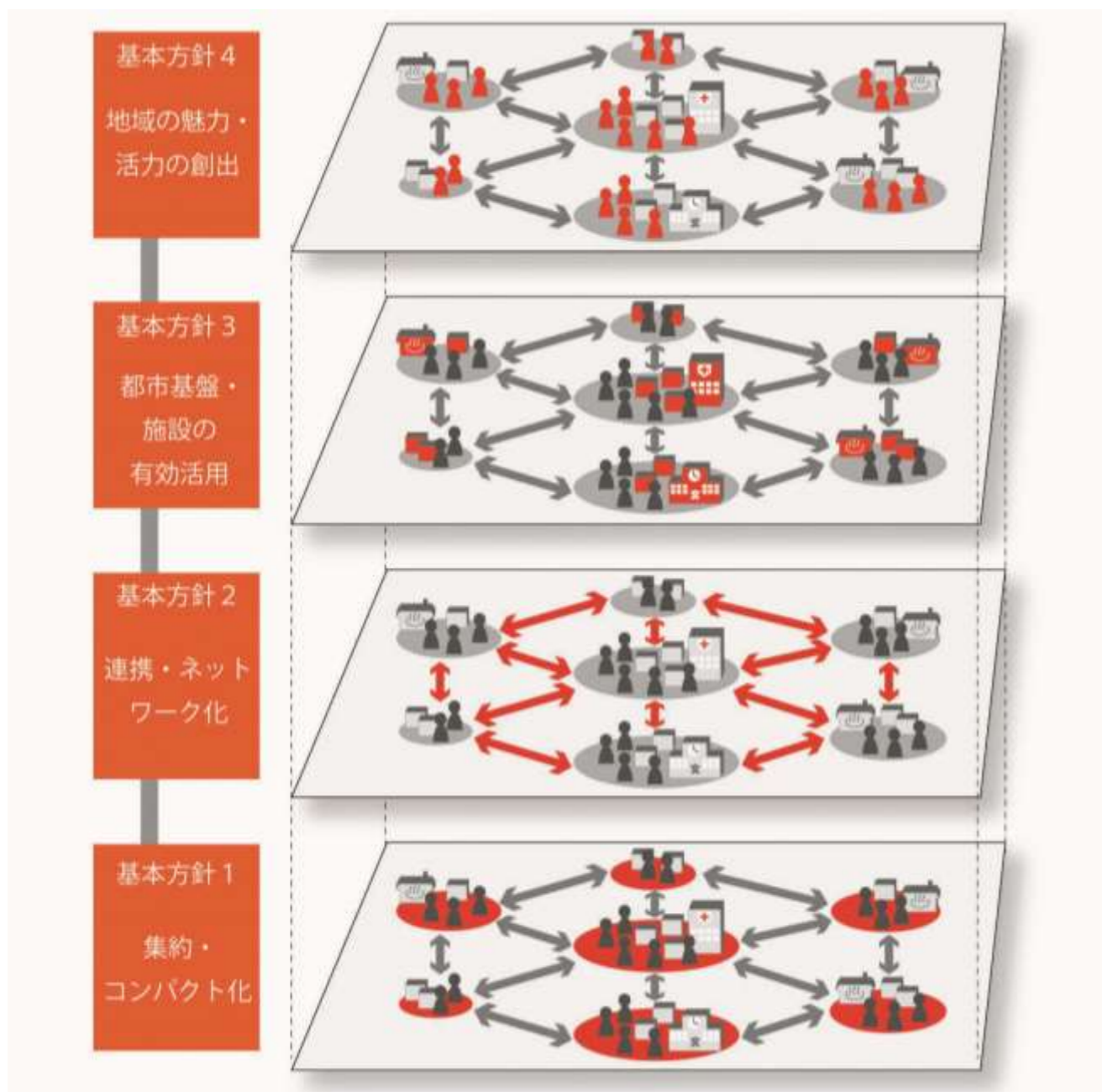
～新技術の積極的な導入による、便利で効率的な生活の質の向上～

近年のデジタル技術の革新や進歩はめざましく、これまで解決できないとされていた社会課題の解決や分野横断的に都市が抱える課題を効率よく同時に解決することも可能となります。

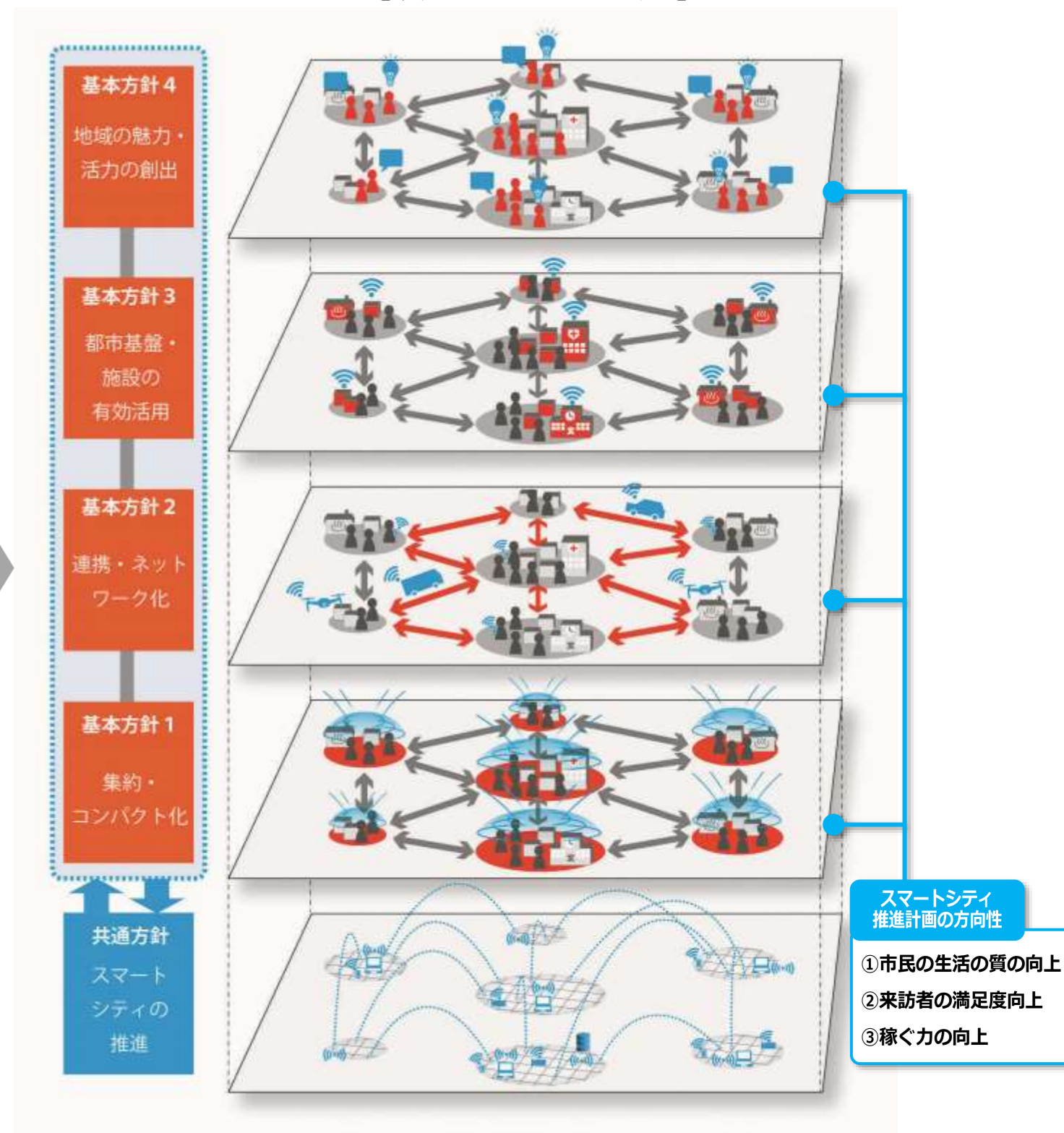
都市の利便性と魅力向上のために、まちづくりのあらゆる分野に対してこれらの技術を横断的に取り入れることで、「未来型」の便利で快適な都市を形成し、市民生活の質の向上を図り、定住人口や交流人口の増加を目指します。

(3) 4つの基本方針の階層イメージ

【現計画】



【改定イメージ（方向性）】



- スマートシティ
推進計画の方向性
- ①市民の生活の質の向上
 - ②来訪者の満足度向上
 - ③稼ぐ力の向上

【現計画】
○基本方針1～4について、それぞれのターゲット「土地利用」「ネットワーク」「都市基盤・施設」「人」と「つながり」による発展の方向性について、着色や図で表現。

【改定イメージ】
○スマートシティの推進が、まちづくりの基本方針1～4の全体に関わりながら、相互に循環して発展していく方向性を表現。
○基本方針内のスマートシティの取組（青色で表現）が、これまでのまちづくりの基本方針（赤色で表現）を支えつつ促進させていくイメージ。